

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年6月20日

【事業年度】 第3期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

【会社名】 株式会社ジーテクト

【英訳名】 G-TEKT CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 菊池 俊嗣

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目9番地4

【電話番号】 048-646-3400(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 吉沢 勲

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目9番地4

【電話番号】 048-646-3400(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 吉沢 勲

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第57期	第58期	第1期	第2期	第3期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高 (百万円)	53,791	59,278	135,376	154,518	181,517
経常利益 (百万円)	3,220	5,572	8,864	11,815	13,852
当期純利益 (百万円)	2,134	3,144	13,727	7,537	8,020
包括利益 (百万円)		2,163	11,205	15,999	21,124
純資産額 (百万円)	25,715	27,137	60,879	80,487	100,599
総資産額 (百万円)	62,001	60,824	129,944	144,752	194,495
1株当たり純資産額 (円)	2,539.86	2,732.92	2,857.93	1,664.22	2,076.61
1株当たり当期純利益金額 (円)	266.31	392.46	725.61	179.05	182.76
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	32.8	36.0	41.6	50.5	46.9
自己資本利益率 (%)	11.3	14.9	36.1	11.9	9.8
株価収益率 (倍)	6.4	4.7	3.4	7.0	7.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	10,147	10,539	20,530	18,860	21,423
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	7,711	5,883	13,082	22,150	29,858
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,668	3,606	383	34	9,843
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	1,807	2,677	15,387	13,126	16,117
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	2,383 (795)	2,339 (913)	6,167 (1,150)	6,683 (1,705)	7,305 (1,367)

- (注) 1. 売上高には消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
3. 当社は、平成23年4月1日付での高尾金属工業株式会社との合併に伴い、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度を「第1期」としております。なお、第1期の主要な経営指標等の各数値につきましては、平成23年4月1日をもって同社グループから引き継いだ事業の同日以降の経営成績等が含まれております。
4. 平成26年4月1日付けで普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。そのため、第2期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第57期	第58期	第1期	第2期	第3期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高 (百万円)	25,720	28,609	47,517	48,966	50,012
経常利益 (百万円)	268	2,318	4,259	4,836	5,040
当期純利益 (百万円)	582	1,371	10,241	3,432	3,637
資本金 (百万円)	1,531	1,531	1,863	4,656	4,656
発行済株式総数 (株)	8,737,200	8,737,200	18,934,730	21,965,630	21,965,630
純資産額 (百万円)	17,012	18,171	48,816	57,692	60,898
総資産額 (百万円)	42,341	41,367	87,252	92,673	109,508
1株当たり 純資産額 (円)	2,123.05	2,267.72	2,581.13	1,314.57	1,387.63
1株当たり配当額 (うち、1株当たり 中間配当額) (円)	22.00 (10.00)	25.00 (12.00)	28.00 (13.00)	34.00 (16.00)	40.00 (18.00)
1株当たり当期 純利益金額 (円)	72.70	171.19	541.37	81.53	82.89
潜在株式調整後 1株当たり当期 純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	40.2	43.9	55.9	62.3	55.6
自己資本利益率 (%)	3.5	7.8	30.6	6.4	6.1
株価収益率 (倍)	23.4	10.8	4.6	15.5	15.5
配当性向 (%)	30.3	14.6	5.2	20.9	24.1
従業員数 (外、平均臨時 雇用者数) (人)	683 (77)	663 (54)	1,054 (181)	1,078 (216)	1,157 (297)

- (注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
3. 当社は、平成23年4月1日付での高尾金属工業株式会社との合併に伴い、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの事業年度を「第1期」としております。なお、第1期の提出会社の経営指標等の各数値につきましては、平成23年4月1日をもって同社から引き継いだ事業の同日以降の経営成績等が含まれております。
4. 平成26年4月1日付けで普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。そのため、第2期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2 【沿革】

年月	事項
昭和27年6月	高尾金属工業(株)：和歌山県田辺市に高尾金属工業株式会社を設立。
昭和28年11月	菊池プレス工業(株)：自動車用部品の製造及び販売を目的として、東京都三鷹市下連雀592番地に菊池ボデー工業有限会社を設立。
昭和38年3月	菊池プレス工業(株)：菊池プレス工業有限会社を資本金10,000千円の株式会社に改組、商号を菊池プレス工業株式会社に変更、本店を東京都三鷹市に置く。
昭和39年5月	菊池プレス工業(株)：本田技研工業株式会社と取引を開始。
昭和41年11月	高尾金属工業(株)：滋賀県甲賀郡土山町（現滋賀県甲賀市土山町）に滋賀工場建設。
昭和42年9月	高尾金属工業(株)：本田技研工業株式会社と取引を開始。
昭和44年1月	菊池プレス工業(株)：東京都西多摩郡羽村町（現東京都羽村市）に羽村工場を新設し、操業を開始。
昭和46年11月	高尾金属工業(株)：本社所在地を和歌山県田辺市より滋賀県甲賀郡土山町（現滋賀県甲賀市土山町）に移転。
昭和59年5月	アメリカ・オハイオ州に、菊池プレス工業株式会社、高尾金属工業株式会社、株式会社ヒラタ、株式会社本郷、American Honda Motor Co., Inc.の5社合弁でK・T・H Parts Industries, Inc.を設立。
昭和62年9月	菊池プレス工業(株)：本田技研工業株式会社の資本参加(出資比率9.52%)。
昭和63年5月	アメリカ・オハイオ州に、菊池プレス工業株式会社、高尾金属工業株式会社、American Honda Motor Co., Inc.の3社合弁でJefferson Industries Corporationを設立。
平成2年4月	菊池プレス工業(株)：栃木県塩谷郡喜連川町（現栃木県さくら市）にテクニカルセンター及び栃木工場を新設し、操業を開始。
平成3年4月	高尾金属工業(株)：栃木県塩谷郡高根沢町にタカオ C & C（現C & C 栃木）を新設。
平成3年9月	両社合弁：Jefferson Industries Corporationの本格的稼働により、K・T・H Parts Industries, Inc.から離脱。
平成6年10月	高尾金属工業(株)：タイ・アユタヤ県にTakao (Thailand) Co., Ltd.（現G-TEKT (Thailand) Co., Ltd.）を設立。
平成8年4月	菊池プレス工業(株)：日本証券業協会に株式を店頭登録
平成8年5月	高尾金属工業(株)：タイ・ラヨン県にTakao Eastern Co., Ltd.（現G-TEKT Eastern Co., Ltd.）を設立。
平成8年10月	両社合弁：カナダ・オンタリオ州にJefferson Elora Corporationを設立。
平成8年12月	菊池プレス工業(株)：ブラジル・サンパウロ州に、Honda Motor do Brasil Ltda.との2社合弁でKP do Brasil Ltda.（現G-KT do Brasil Ltda.）を設立。
平成9年1月	高尾金属工業(株)：イギリス・グロスター州にStadoco Takao Europe（現G-TEKT Europe Manufacturing Ltd.）を設立。
平成10年7月	菊池プレス工業(株)：アメリカ・インディアナ州のAustin Tri-Hawk Automotive Inc.を設立。

年月	事項
平成11年3月	高尾金属工業(株)：アメリカ・ミシガン州にTakao America Corporation (現G-TEKT America Corporation) を設立。
平成12年7月	両社合弁：アメリカ・ジョージア州にJefferson Southern Corporationを設立。
平成13年10月	両社合弁：中国広東省広州市にAuto Parts Alliance (China) Ltd.を設立。
平成14年6月	菊池プレス工業(株)：群馬県太田市に群馬工場を新設し、操業を開始。
平成14年7月	菊池プレス工業(株)：東京都羽村市に本店を移転。
平成16年5月	高尾金属工業(株)：タイ・ラヨン県にThai G&B Manufacturing Ltd.を設立。
平成16年12月	菊池プレス工業(株)：ジャスダック証券取引所(現東京証券取引所JASDAQ(スタンダード))に株式を上場。
平成17年3月	両社合弁：中国湖北省武漢市にWuhan Auto Parts Alliance Co., Ltd.を設立。
平成17年5月	菊池プレス工業(株)：本田技研工業株式会社が当社発行済株式のうち900千株を追加取得し、筆頭株主である主要株主となる(出資比率20.7%)。
平成17年9月	菊池プレス工業(株)：中国広東省広州从化市に、Conghua K&S Auto Parts Co.,Ltd.を設立。
平成19年2月	両社合弁：インド・ラジャスタン州にGlobal Auto-Parts Alliance India Private Ltd.を設立。
平成20年2月	菊池プレス工業(株)：ISO/TS 16949の認証を取得。
平成21年9月	菊池プレス工業(株)：埼玉県深谷市に埼玉工場を新設し、操業を開始。
平成23年4月	菊池プレス工業株式会社と高尾金属工業株式会社が合併。商号を株式会社ジーテクトに変更し、本店を埼玉県さいたま市に移転。
平成23年11月	インドにおける事業再構築のため、連結子会社を再編することとし、インド・ラジャスタン州にG-TEKT India Private Ltd.を設立。
平成24年2月	インドネシア・西ジャワ州にPT.G-TEKT Indonesia Manufacturingを設立。
平成24年3月	メキシコ・グアナファト州に当社、株式会社エイチワンの2社合弁でG-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V.を設立。
平成25年4月	アメリカ・オハイオ州にG-TEKT North America Corporationを設立。
平成25年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
平成25年9月	メキシコ・グアナファト州にG-TEKT MEXICO CORP S.A. DE C.V.を設立。

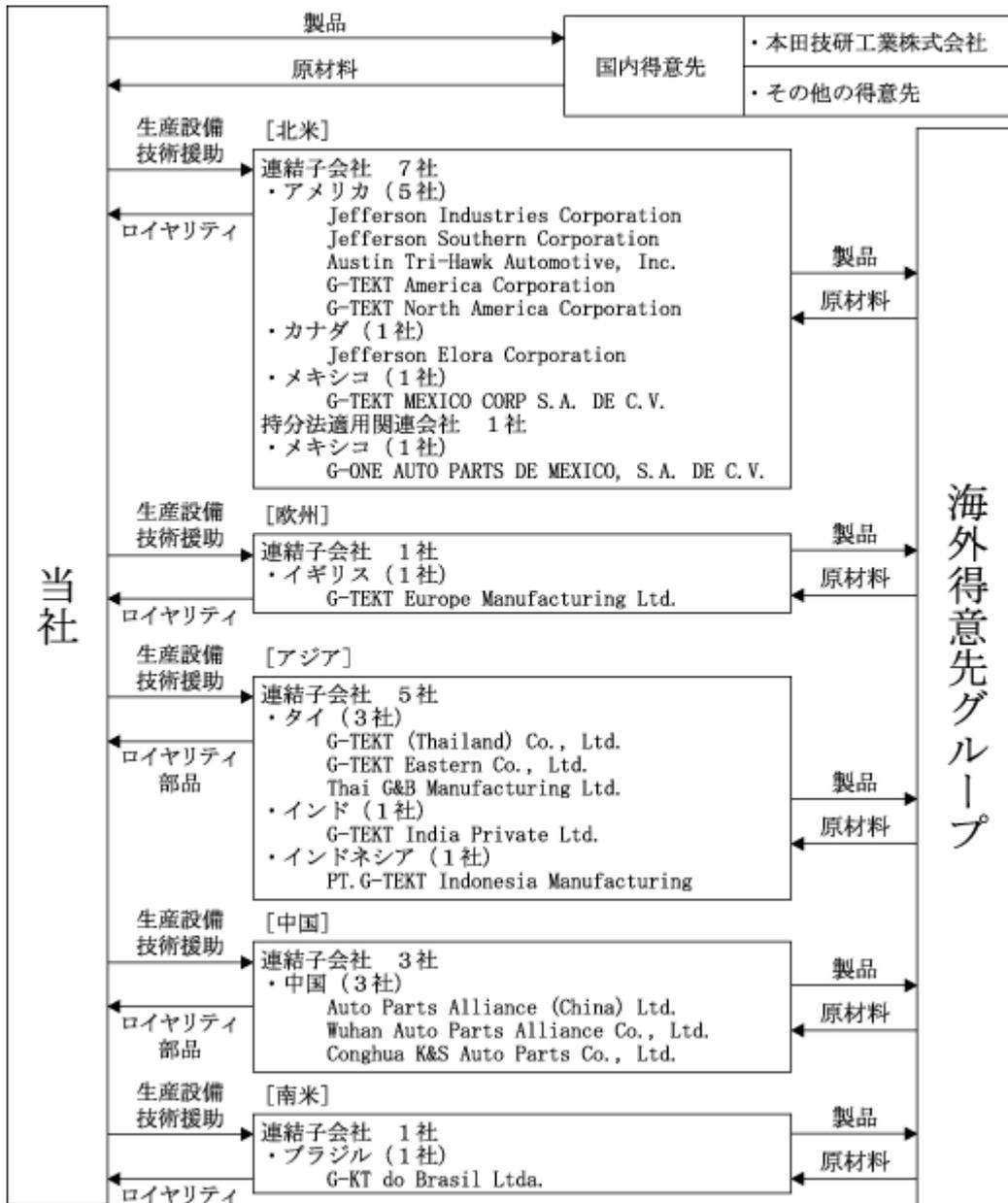
3 【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社及び連結子会社17社及び持分法適用関連会社1社により構成され、日本、北米、欧州、アジア、中国、南米における自動車用車体部品及び駆動系のトランスミッション部品並びに車体部品の製造に必要な金型・治工具等の製造・販売を主な事業内容としております。

国内得意先向けには当社が製造・販売し、海外得意先向けには北米、欧州、アジア、中国、南米において現地の子会社及び関連会社が当社からの技術援助を受けるとともに、当社より金型・治工具等の生産設備、G-TEKT (Thailand) Co., Ltd.及びAuto Parts Alliance (China) Ltd.より金型の生産設備の供給を受け、自動車部品の製造・販売を行っております。

[事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



(注) 連結子会社G-TEKT North America Corporationは、R&Dとしての役割も担っております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合(%)	関係内容				
					役員の兼任		資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
					当社役員	当社従業員			
(連結子会社) Jefferson Industries Corporation (注)1、6	米国・オハイオ州	千米ドル 40,000	自動車用車体プレス部品の製造・販売	62.6	3				当社製品及び設備の販売
Jefferson Southern Corporation (注)1、4、5	米国・ジョージア州	千米ドル 23,000	自動車用車体プレス部品の製造・販売	100.0 (91.3)	3				当社製品及び設備の販売
Austin Tri-Hawk Automotive, Inc. (注)1	米国・インディアナ州	千米ドル 18,850	自動車用車体プレス部品の製造・販売	93.6	5				当社製品及び設備の販売
G-TEKT America Corporation (注)1	米国・ミシガン州	千米ドル 14,000	自動車用車体プレス部品の製造・販売	85.0	2	1			当社製品及び設備の販売
Jefferson Elora Corporation (注)1、4、5	カナダ・オンタリオ州	千カナダドル 24,000	自動車用車体プレス部品の製造・販売	100.0 (88.8)	1	1			当社製品及び設備の販売
G-TEKT North America Corporation (注)1	米国・オハイオ州	千米ドル 22,000	自動車用車体部品の営業、開発及び販売	100.0	2	2	債務保証		当社製品及び設備の営業、開発及び販売
G-TEKT MEXICO CORP S.A. DE C.V.	メキシコ・グアナフアト州	千米ドル 2,000	自動車用車体プレス部品及び精密部品の製造・販売	100.0		1			当社製品及び設備の販売
G-TEKT Europe Manufacturing Ltd. (注)1	英国・グロスター州	千ポンド 12,014	自動車用車体プレス部品の製造・販売	100.0	3				当社製品及び設備の販売
G-TEKT (Thailand) Co., Ltd. (注)1、2	タイ・アユタヤ県	千バーツ 140,000	自動車用車体プレス部品の製造・販売	49.0	3	1			当社製品及び設備の販売
G-TEKT Eastern Co., Ltd. (注)1	タイ・ラヨン県	千バーツ 507,400	自動車用車体プレス部品の製造・販売	100.0	2				当社製品及び設備の販売
Thai G&B Manufacturing Ltd.	タイ・ラヨン県	千バーツ 74,000	自動車用車体プレス部品の製造・販売	100.0	2				当社製品及び設備の販売
G-TEKT India Private Ltd. (注)1	インド・ラジャスタン州	千ルピー 650,000	自動車用車体プレス部品の製造・販売	100.0	2	2	債務保証		当社製品及び設備の販売
PT.G-TEKT Indonesia Manufacturing (注)1	インドネシア・西ジャワ州	千米ドル 61,123	自動車用車体プレス部品及び精密部品の製造・販売	100.0	3	2	債務保証		当社製品及び設備の販売
Auto Parts Alliance (China) Ltd. (注)1、6	中国広東省広州市	千米ドル 34,000	自動車用車体プレス部品の製造・販売	100.0	3	1			当社製品及び設備の販売
Wuhan Auto Parts Alliance Co., Ltd. (注)1	中国湖北省武漢市	千米ドル 15,000	自動車用車体プレス部品の製造・販売	100.0	2	2			当社製品及び設備の販売
Conghua K&S Auto Parts Co., Ltd. (注)1	中国広東省広州从化市	千米ドル 4,505	自動車用車体プレス部品(小物部品)の製造・販売	100.0	2	1			当社製品及び設備の販売
G-KT do Brasil Ltda. (注)1	ブラジル・サンパウロ州	千リアル 52,600	自動車用車体プレス部品の製造・販売	100.0	1				当社製品及び設備の販売
Global Auto-Parts Alliance India Private Ltd. (注)1、7	インド・ラジャスタン州	千ルピー 2,102,000		93.6	2	1			

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合(%)	関係内容				
					役員の兼任		資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
					当社役員	当社従業員			
(持分法適用関連会社) G-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V.	メキシコ・グアナフアト州	千ペソ 391,086	自動車用車体プレス部品の製造・販売	50.0	1				当社製品及び設備の販売
(その他の関係会社) 本田技研工業株式会社(注)3	東京都港区	百万円 86,067	原動機及び輸送用器具、農機具、その他原動機を利用した機械器具の製造及び販売	(被所有) 29.7					当社製品及び設備の販売

- (注) 1. 特定子会社に該当しております。
2. 持分は100分の50以下ではありますが、実質的に支配しているため子会社としたものであります。
3. 本田技研工業株式会社は、有価証券報告書を提出しております。
4. Jefferson Southern Corporation、Jefferson Elora Corporationは、Jefferson Industries Corporationの子会社となっております。
5. 議決権の所有割合又は被所有割合の()内は、間接所有割合であります。
6. Jefferson Industries Corporation、Auto Parts Alliance (China) Ltd.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

		Jefferson Industries Corporation	Auto Parts Alliance (China) Ltd.
主な損益情報等	(1) 売上高	33,386百万円	25,348百万円
	(2) 経常利益	1,647百万円	2,367百万円
	(3) 当期純利益	1,125百万円	1,777百万円
	(4) 純資産額	10,352百万円	13,289百万円
	(5) 総資産額	16,050百万円	25,460百万円

7. Global Auto-Parts Alliance India Private Ltd.は、清算中であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成26年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
日本	1,157 (297)
北米地域	1,433 (372)
欧州地域	531 (0)
アジア地域	1,246 (677)
中国地域	2,328 (6)
南米地域	610 (15)
合計	7,305 (1,367)

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。
2. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与(円)
1,157 (297)	37才 1ヶ月	13年 1ヶ月	6,100,274

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。
2. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
3. 平均年間給与(税込み)は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
4. 提出会社は、「(1) 連結会社の状況」における「日本」と同一であるため、セグメントの記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、ジーテクト労働組合と称し、JAMに加盟し、労使関係は相互信頼を基調として良好であり、紛争問題等が生じたことはありません。また、平成26年3月31日現在の組合員数は952名でユニオンショップ制であります。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における国内外の経済情勢は、国内景気は円安・株高と政府の経済対策により、回復基調で推移いたしました。海外については、米国の景気は、一部に弱めの動きが認められますものの、緩やかに回復しておりますほか、アジアなどの新興国市場は、緩やかな拡大傾向にあります。欧州の景気は、依然弱さが残っておりますが、総じて、世界全体で緩やかな回復が続いております。

自動車業界につきましては、国内の生産・販売実績は、概ね順調に推移しており、海外では、北米・中国を中心に、生産・販売が拡大・回復傾向にあります。

このような経営環境の中、当社グループでは、国内外において、受注拡大や新型車に係る受注部品の量産立ち上げに注力するとともに、アメリカ、メキシコ、タイ、インドネシアにおいて、新会社・新工場の稼働準備を推進してまいりました。

アメリカでは、現地ニーズを受けた営業開発と、ホットスタンプの現地生産を行うことを目的として設立したG-TEKT North America Corporationにおいて、次機種開発に向けた準備を進めるとともに、北米ホットスタンプ第1号ラインの導入を進めてまいりました。

このホットスタンプ技術につきましては、日本で見極めを行い、4部品同時加工や水冷金型技術などにより、生産性を大きく向上させております。

メキシコでは、車一台分の車体部品を供給できるサプライヤーとして、同業他社と合併で設立したG-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V.において、生産を開始いたしましたほか、北米地域のトランスミッション事業の中核拠点として、G-TEKT MEXICO CORP S.A. DE C.V.を設立し、車体部品の生産とともにトランスミッション部品の現地生産に向けた準備を着々と進めております。

タイでは、アジア地域での自動車生産拡大に伴い、多様なお客様ニーズに対応するため、G-TEKT Eastern Co., Ltd.の第二工場建設を進めてまいりました。

インドネシアでは、CVT部品などのトランスミッション部品の現地生産化、車体部品の受注拡大を目的として設立したPT.G-TEKT Indonesia Manufacturingにおいて、車体部品、トランスミッション部品共に生産を開始しております。

低燃費へ貢献するCVTの需要は、近年、グローバルに高まってきておりますが、これを受け、当社では、このPT.G-TEKT Indonesia ManufacturingやメキシコのG-TEKT MEXICO CORP S.A. DE C.V.などを活用し、グローバル市場をターゲットに、トランスミッション部品の現地生産を加速してまいります。

また、このようにグローバルに拡大を見込んでおりますトランスミッション部品事業におきまして、今後、更なる技術的な価値を創造していくため、トランスミッション部品事業のセンター機能を担う栃木工場の増築を進めております。今後、高効率、高品質な造り方を徹底検証し、グローバルでの安定供給に向けた技術開発・機能強化を進めてまいります。

コア技術の進化への取り組みにつきましては、主力製品であります車体部品の更なる競争力向上のため、製品設計段階における発想の転換を図り、部分最適から全体最適となる革新的な部品造りで、開発・提案力を更に強化し、よりスピーディーにフレキシブルにお客様の多様なニーズに対応できる物造り体質の実現に向けて取り組んでまいりました。

環境面では、CO₂の削減に貢献するため、既存工場の建物を有効活用し、太陽光発電システムの設置を推進してまいりました。今後もより一層、環境への取り組みを強化してまいります。

コーポレート・ガバナンス体制強化の取り組みにつきましては、独立した専門的な視点を通じて、適切な経営の意思決定及び経営の監督を実現し、経営の健全性・透明性の更なる向上を図るため、独立社外取締役を設置いたしております。

コンプライアンス体制強化への取り組みでは、コンプライアンス意識の更なる向上を図るため、コンプライアンス研修会を国内各拠点にて開催いたしましたほか、お取引先様との健全な取引関係を維持するため、贈収賄の禁止や独占禁止法の遵守、反社会的勢力排除等のコンプライアンスに係る契約条項の追加を推進しております。

リスクマネジメントに関する取り組みでは、危機別対応マニュアルのうち、巨大地震などの大規模災害の発生を想定した初動対応マニュアルの改定を実施いたしております。

以上を踏まえた当連結会計年度の業績につきましては、前年同期に比べ、国内、北米、アジア、中国地域で生産台数が増加し、為替換算の影響もあり、売上高は181,517百万円（前年同期比17.5%増）となりました。利益につきましては、労務費及び減価償却費等の増加により、営業利益は14,121百万円（前年同期比23.9%増）、経常利益は13,852百万円（前年同期比17.3%増）、当期純利益は8,020百万円（前年同期比6.4%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

日本

主要得意先の新工場稼働及び新機種の販売好調、消費増税前の駆け込み需要もあり生産台数は回復しましたが、スモール化による機種構成の変化により、売上高は50,012百万円（前年同期比2.1%増）となりました。

機種構成の変化に加え、増産や新機種の立上げ集中に伴うコスト増により、営業利益は3,179百万円（前年同期比5.2%減）となりました。

北米

生産台数の増加や為替影響により増収となり、売上高は60,955百万円（前年同期比9.7%増）となりました。

増収効果及び新機種立上げによる金型設備売上が寄与して、営業利益は2,558百万円（前年同期比36.5%増）となりました。

欧州

生産台数・型設備売上が減少し、売上高は9,474百万円（前年同期比2.6%減）、営業利益は889百万円（前年同期比20.1%減）となりました。

アジア

生産台数は、タイでは購入支援策効果が持続しましたが、景気低迷やローン審査の厳格化などにより次第に減速しました。一方、インドでは生産台数が増加傾向に推移し、為替影響もあり、売上高は32,658百万円（前年同期比39.3%増）となりました。

利益面では増収効果がありましたが、インドネシア新拠点の創業損失や金型設備調達コストもあり、営業利益は4,010百万円（前年同期比19.0%増）となりました。

中国

日本車不買運動の沈静化により生産台数が大幅に回復したことに加え、為替影響もあり、売上高は31,878百万円（前年同期比47.0%増）となりました。

増収効果に加え、新機種の金型設備の売上増加も寄与し、設備投資による減価償却費や労務費の増加を吸収して、営業利益は2,982百万円（前年同期比182.9%増）となりました。

南米

生産台数の増加、二輪部品の量産開始に加え、為替影響により増収となり、売上高は6,662百万円（前年同期比15.2%増）となりました。

要員の増加による労務費の増加や保守保全費の増加が影響し、営業利益は465百万円（前年同期比34.2%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、16,117百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,990百万円増加いたしました。

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、前連結会計年度に比べ、2,563百万円増加し、21,423百万円となりました。これは主に税金等調整前当期純利益、減価償却費の増加、法人税等支払額の減少などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ、7,707百万円増加し、29,858百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出の増加などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、前連結会計年度に比べ、9,809百万円増加し、9,843百万円となりました。これは主に長期借入による収入の増加などによるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
日本	48,072	19.3
北米	55,655	7.4
欧州	8,444	1.0
アジア	27,013	42.2
中国	28,036	46.9
南米	5,739	23.3
合計	172,961	20.8

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
日本	49,657	63.5	10,243	386.5
北米	61,574	11.3	14,628	7.0
欧州	9,977	3.7	2,508	25.2
アジア	32,738	22.5	7,062	2.7
中国	32,722	61.0	6,553	44.7
南米	6,731	15.4	1,468	5.0
合計	193,401	30.5	42,464	38.9

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
日本	41,519	7.2
北米	60,613	9.2
欧州	9,472	2.6
アジア	32,550	39.0
中国	30,698	43.7
南米	6,662	15.2
合計	181,517	17.5

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 最近2連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
本田技研工業(株)	22,618	14.6	22,765	12.5
Honda of America Mfg., Inc.	18,934	12.3	18,325	10.1

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度について、当該割合が100分の10未満の相手先は記載を省略しております。

3 【対処すべき課題】

(1) 当社グループの現状の認識について

当社グループを取り巻く経営環境は、新興国における自動車需要の高まりや、世界各国・各地域におけるお客様ニーズの多様化などにより、市場構造が変化するとともに、グローバルでの競争が激化しております。

このような競争環境の変化が起こる中で、熾烈なグローバル競争に打ち勝つためには、お客様ニーズを的確に捉え、よりスピーディーかつフレキシブルにお客様の求めるものを提案できるかが課題だと考えており、そのためには、もう一度、原理、原則、原点を見つめ直し、これまでの日本や北米ビジネスでの成功体験にとらわれないビジネス展開を進めることが重要だと考えております。

(2) 当面の対処すべき課題の内容

当社グループは、第2次中期のスタートにあたって、市場のニーズにマッチしたビジネス展開を図るため、2020年に向けた中長期ビジョンであります「G4-20」（ジーフォー・トゥエンティ）の見直しを行い、物造り会社として重要な“Genba（現場）”、世界中のマーケットでビジネスを展開する“Global（世界）”、将来に向けて人材の創出や技術革新を加速させる“Grow up（成長）”、自動車業界の最も重要な課題である環境・安全に対するニーズに対応する“Green（環境・安全・社会貢献）”といったこれまでの「4つの“G”」に加え、新たに「Innovative Technologies」（イノベティブ・テクノロジー）の考え方を掲げ、取り組んでいくことといたしました。

この新しい「G4-20」を基軸に、以下の全社的な経営課題に取り組み、あらゆるお客様ニーズに対応できる真のグローバル企業を実現するとともに、改めて原点に立ち返り、より競争力ある物造り体質を構築し、車体部品とトランスミッション部品の専門メーカーとして世界TOPを目指してまいります。

(3) 具体的な取組状況等

ジーテクトグローバルスタンダードの実践

グローバルで仕事を進めるうえで、品質保証や営業活動、生産性向上の施策など、色々な仕事で共有すべき情報があります。日本を含めた全地域との相互の連携を強化し、効率・効果の最大化を狙います。

地域最適生産体質の構築

生産現場では、生産ラインに安定した仕事量を流せるようにすることが大切です。ライン構想や作業方法、物流など、それぞれの地域の状況に合わせた取り組みで地域ごとの最適化を達成いたします。

地域毎での最廉価戦略の構築

最廉価を達成するために、部品・金型・治工具をできる限り現調化（現地生産・現地調達）を図ってまいります。また、新機種の展開においては、グローバルでのスケールメリットを追及した型、治工具の展開や評価イベントの開催方法の簡素化、図面・仕様書・マニュアルなどの生産性向上で、コスト低減を推進いたします。

グローバルマネジメントの強化

ますます増えるお客様の現地開発車の対応については、「現地顧客ニーズの把握」、「現地で手に入る経営資源の情報収集」などのセンサー機能の強化と「現地開発力の強化」といった各海外地域の自立化を推進してまいります。

コア技術の進化と新技術革新の加速

「車1台分のホワイトボディはどうあるべきか」という観点で、すべての仕事の進め方を整理し、「ボディ1台開発」に繋がる仕組みをゲストエンジニアや開発のメンバーだけでなく、生産技術や生産現場、管理部門が一体となり、G-TEKTの総力を挙げて取り組んでまいります。

トランスミッション部品事業は、海外での需要拡大に対応するため、現地化を加速させるとともに、新規部品の取り組みも継続展開してまいります。

グローバル人材の創出

各海外地域の自立化促進や海外での業容拡大対応のため、グローバルスタッフや現地人スタッフの育成を強化いたします。

環境/安全に配慮した事業展開

CSR（企業の社会的責任）活動を本格的にグローバル展開し、環境に関しては活動結果を環境報告書にまとめてまいります。

CO₂排出量の削減を目標に、「低炭素ものづくり」の取り組みを実践してまいります。

限りある地球の資源を有効活用するため、3R活動（Reduce：リデュース、Reuse：リユース、Recycle：リサイクル）に取り組んでまいります。

『0』災害職場づくりを継続展開してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関連する事項のうち、当社グループの財政状態及び経営成績等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあり、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のあることを認識しております。

なお、以下に記載している将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成26年6月20日)現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 市場環境の変化について

当社グループは、日本、北米、中国及びその他のアジア地域、南米、欧州と、世界各国において事業を展開しております。また、当社グループは、現地の完成車メーカー及び関連部品メーカーに対し製品を供給しており、これらの市場における経済の低迷や税制・物価等の動向による消費者の購買意欲の低下は、自動車の販売低下につながり、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(2) 特定の販売先への高い依存度について

当社グループについては、連結売上高の概ね7割を本田技研工業株式会社及びそのグループ会社が占めております。同社とは、資本的関係及び継続的かつ安定した取引上の関係にあり、新機種の開発・企画段階から参画し開発・量産提案を通じて顧客ニーズに即した製品開発に努めています。同社からのさらなる受注拡大に努めるとともに、同社以外への販路拡大を推進してまいります。同社グループの国内外における生産及び販売の動向、事業戦略や購買方針等により当社グループの業績は大きな影響を受ける可能性があります。

(3) 海外事業について

当社グループは、海外において積極的な事業展開を図っております。これらの国、地域においては、予期することのできない法律又は諸規制の決定又は変更、政府による外貨規制、投資政策、関税政策など諸政策の発動、急激な経済の変化等の要因により材料や部品の調達、生産、販売に遅延や停止を生じる可能性があります。このような事態が生じた場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(4) 競合、価格競争について

当社グループには、事業展開にあたり、多くの競合他社との競合・価格競争にさらされる状況にあります。当社グループは、地域ごとに異なる顧客ニーズを的確に捉え、価格競争力のある開発提案を行い、常に顧客に必要とされる製品を提供することで、競争力の向上に努めておりますが、今後も市場シェアを維持・獲得できる保証はありません。

(5) 為替変動について

当社グループは、海外において子会社等によって現地生産を行っているほか、海外の販売先に対し金型・治工具等の生産設備を販売するなど、一部の製品及び部品等を輸出しております。為替予約などの手段で為替リスクの軽減を図っておりますが、急激又は大幅な為替変動により当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(6) 新技術について

当社グループは、車体部品及びトランスミッション部品の研究開発活動に注力しております。しかし、顧客ニーズの変化を予測できず、魅力ある新製品を開発できない場合や適時に提供できない場合、想定よりも需要が伸びなかった場合には、将来の成長と収益性を低下させ、投資負担が当社グループの財政状態又は業績に影響を与える可能性があります。

また、当社グループの取扱分野において新素材の普及が進んだ場合には、当社グループの製品と競合することとなり、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(7) 災害、戦争、テロ、ストライキ、電力使用制限等の影響について

当社グループは、国内外において工場を設け、プレス、溶接加工等の生産設備を活用し、現地で従業員を採用し、自動車部品の生産、販売を行っております。大地震、洪水、津波、竜巻などの自然災害、感染症などの疾病の流行、戦争及びテロ、大衆運動、現地従業員のストライキ等の労働問題、電力やエネルギーの使用制限などに影響される可能性があります。これらが発生した場合には、原材料や部品の調達、生産、販売に遅延や停止を生じる可能性があります。当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(8) 製品の欠陥について

当社グループは、関連法規を遵守し、国際的な品質管理基準に従って設計・製造を行ない、品質向上に努めております。しかし、全ての製品に欠陥が無く、将来の損失発生がないとの保証はありません。欠陥の内容によってはコストの発生や当社グループ評価に重大な影響を与え、当社グループの財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 部分品・購入品の調達について

当社グループは、主要な部分品・購入品の調達については、当社グループ内外の特定の仕入先に依存しております。このため、特定の仕入先の操業が停止するなどにより、仕入れができない状況が発生した場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) 当社が技術援助等を与えている契約

相手先	国名	契約品目	契約内容	契約期間
Jefferson Industries Corporation	米国	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成15年10月1日 至平成18年9月30日 以降1年毎に自動延長
Jefferson Elora Corporation	カナダ	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成9年3月31日 至平成14年3月30日 以降5年毎に自動延長
Jefferson Southern Corporation	米国	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成13年5月31日 至平成18年5月30日 以降1年毎に自動延長
Austin Tri-Hawk Automotive, Inc.	米国	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成10年1月25日 至平成13年1月24日 以降1年毎に自動延長
G-KT do Brasil Ltda.	ブラジル	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成9年5月30日 至平成14年5月29日 以降1年毎に自動延長
Auto Parts Alliance (China) Ltd.	中国	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成23年7月1日 至平成28年6月30日
Wuhan Auto Parts Alliance Co., Ltd.	中国	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成23年4月1日 至平成28年3月31日
G-TEKT Europe Manufacturing Ltd.	イギリス	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成12年2月1日 至平成16年1月31日 以降1年毎に自動延長
G-TEKT (Thailand) Co., Ltd.	タイ	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成9年4月1日 至平成14年3月31日 以降1年毎に自動延長
G-TEKT Eastern Co., Ltd.	タイ	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成8年5月1日 至平成13年4月30日 以降1年毎に自動延長
G-TEKT India Private Ltd.	インド	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成20年6月26日 至平成25年6月25日 以降1年毎に自動延長
PT.G-TEKT Indonesia Manufacturing	インドネシア	自動車用部品、プレス金型及び治工具	自動車用部品、プレス金型及び治工具に関する技術及び製造ノウハウ供与につき、その製造権、使用権、販売権を非独占的に付与する契約	自平成25年9月1日 至平成28年8月31日 以降1年毎に自動延長

(注) 上記については、ロイヤルティとして売上高の一定率を受け取っております。

(2) 研究開発基本契約

相手先	契約内容	契約締結日
G-TEKT North America Corporation	G-TEKT North America Corporationが当社に対して当社が北米で製造・販売する製品についての研究開発支援を行う旨の契約	自平成25年10月1日 至平成30年9月30日 以降5年毎に自動延長

(3) 合併契約

相手先	契約内容	契約締結日
株式会社エイチワン	G-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V.を当社及び株式会社エイチワンとの合併会社として運営する旨の契約であります。なお、G-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V.に対する出資比率は以下のとおりであります。 当 社 50% 株式会社エイチワン 50%	平成24年2月1日

6 【研究開発活動】

当社グループは、自動車環境や快適性、安全性を追求しながら日々進化し、多様化してゆくなかで新たに生まれる広汎なニーズに応え、より優れた製品を造り社会に貢献してゆくために、製品と製造技術の研究開発活動を推進しております。

このなかで、新技術や新製品の研究開発は、日本における当社の技術本部開発部がその役割を担い、一方新規車種の生産準備である機種開発は、技術本部プレス技術部、溶接技術部、精密部、および営業本部商品開発部が、各々で蓄積した技術基盤や専門の知見をもって、お客様と連携しながらこれに従事しております。開発部の人員は21名であり、当連結会計年度の研究開発費の総額は459百万円となっております。

当連結会計年度における主な研究開発のテーマは、次のとおりであります。

ホットスタンプ技術開発

超高張力鋼板の成形技術開発

スポット溶接部の非破壊検査技術開発

トランスミッション部品プレス技術開発

成形シミュレーション技術開発

ボディ軽量化技術開発

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たりましては、特に以下の重要な会計方針が当社の重要な判断と見積りに影響を及ぼすと考えております。

投資有価証券

当社グループは、長期的な取引関係の維持強化のため、特定の顧客や取引金融機関の株式を所有しております。この株式については、「金融商品に係る会計基準」に基づき、毎連結会計年度末ごとに評価減処理の要否につき判断しております。

重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、為替差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。

退職給付引当金

当社及び一部の在外連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

(2) 当連結会計年度の財政状態の分析

当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末より49,742百万円増加し、194,495百万円となりました。これは主に、有形固定資産、投資有価証券の増加などによるものであります。

当連結会計年度末における負債合計は前連結会計年度末より29,630百万円増加し、93,895百万円となりました。これは主に、買掛金、未払金、長期借入金の増加などによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末より20,111百万円増加し、100,599百万円となりました。これは主に、利益剰余金、為替換算調整勘定の増加などによるものであります。

(3) 当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況の分析

「第2 事業の状況 1 業績の概要 (2) キャッシュフローの状況」に記載のとおりであります。

(4) 当連結会計年度の経営成績の分析

「第2 事業の状況 1 業績の概要 (1) 業績」に記載のとおりであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度におきましては、新機種立ち上げに伴う機種投資として、国内で5,035百万円、中国で3,189百万円、生産能力増強のための基礎投資として、インドネシアで工場建屋の建設、機械設備の取得に5,241百万円、ブラジルで工場建屋の拡張、機械設備の取得に778百万円の設備投資を行いました。設備投資額の総計は、21,056百万円であります。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及び 運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
本社 (埼玉県さいたま市 大宮区)	日本	本社事務所	14	23	(1,096.35)	15	52	69 [3]
埼玉工場 (埼玉県深谷市)	日本	自動車部品製造	3,736	1,499	2,098 (63,789.92)	2,167	9,503	127 [148]
滋賀工場 (滋賀県甲賀市)	日本	自動車部品製造	2,682	660	460 (95,781.28)	1,584	5,388	377 [101]
群馬工場 (群馬県太田市)	日本	自動車部品製造	1,124	326	2,118 (82,167.81)	339	3,909	191 [27]
埼玉工場羽村事業 所・事務所 (東京都羽村市)	日本	自動車部品製造・研究開発、 金型・治具等の設計・及び 検証	421	1,044	1,491 (30,713.77)	756	3,713	189 [22]
栃木工場 (栃木県さくら市)	日本	自動車部品製造	702	961	342 (20,568.39)	264	2,270	152 [44]
C & C 栃木 (栃木県塩谷郡高根 沢町)	日本	自動車部品開発	220	1	289 (5,884.51)	6	517	56 [5]

(2) 在外子会社

平成26年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
Jefferson Industries Corporation	本社及び工場 (米国・オハイオ州)	北米	本社事務所 自動車部品 製造	3,174	2,937	49 (328,960)	106	6,268	534 [128]
Jefferson Southern Corporation	本社及び工場 (米国・ジョージア州)	北米	本社事務所 自動車部品 製造	1,521	992	(186,156)	112	2,626	225 [43]
Austin Tri-Hawk Automotive, Inc.	本社及び工場 (米国・インディアナ州)	北米	本社事務所 自動車部品 製造	1,327	604	58 (242,820)	49	2,040	149 [34]
G-TEKT America Corporation	本社及び工場 (米国・ミシガン州)	北米	本社事務所 自動車部品 製造	614	268	124 (36,988)	171	1,178	63 [31]

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
Jefferson Elora Corporation	本社及び工場 (カナダ・オン タリオ州)	北米	本社事務所 自動車部品 製造	1,718	1,440	547 (303,515)	238	3,945	365 [91]
G-TEKT North America Corporation	本社及び工場 (米国・オハ イオ州)	北米	本社事務所 自動車部品 製造・開発	266	63	61 (101,171)	216	607	54 [2]
G-TEKT Europe Manufacturing Ltd.	本社及び工場 (英国・グロ スター州)	欧州	本社事務所 自動車部品 製造	2,854	1,930	56 (94,376)	6	4,848	531 [0]
G-TEKT (Thailand) Co., Ltd.	本社及び工場 (タイ・アユ タヤ県)	アジア	本社事務所 自動車部品 製造	496	1,939	277 (44,697)	2,445	5,158	316 [157]
G-TEKT Eastern Co., Ltd.	本社及び工場 (タイ・ラヨ ン県)	アジア	本社事務所 自動車部品 製造	744	1,590	820 (72,484)	984	4,139	479 [335]
Thai G&B Manufacturing Ltd.	本社及び工場 (タイ・ラヨ ン県)	アジア	本社事務所 自動車部品 製造	94	57	(6,392)	53	205	67 [16]
G-TEKT India Private Ltd.	本社及び工場 (インド・ラ ジャスタン 州)	アジア	本社事務所 自動車部品 製造	267	515	(106,513)	29	812	102 [144]
PT.G-TEKT Indonesia Manufacturing	本社及び工場 (インドネシ ア・西ジャワ 州)	アジア	本社事務所 自動車部品 製造	2,342	2,545	691 (73,078)	2,493	8,073	250 []
Auto Parts Alliance (China) Ltd.	本社及び工場 (中国広東省 広州市)	中国	本社事務所 自動車部品 製造	6,154	4,588	(138,294)	3,246	13,990	1488 []
Wuhan Auto Parts Alliance Co.,Ltd.	本社及び工場 (中国湖北省 武漢市)	中国	本社事務所 自動車部品 製造	4,152	2,738	(101,655)	1,025	7,917	548 [75]
Conghua K&S Auto Parts Co.,Ltd.	本社及び工場 (中国広東省 広州从化市)	中国	本社事務所 自動車部品 製造	6	226	(22,100)	36	269	260 []
G-KT do Brasil Ltda.	本社及び工場 (ブラジル・ サンパウロ 州)	南米	本社事務所 自動車部品 製造	1,391	1,790	64 (143,684)	208	3,454	604 []

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具及び備品であり、建設仮勘定を含んでおります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
2. 従業員数の[]は、臨時従業員数を外書しております。
3. 在外子会社の帳簿価額及び従業員数は、各社の決算日（平成25年12月31日及び平成26年3月31日）の数値を記載しております。
4. Auto Parts Alliance (China) Ltd.、Wuhan Auto Parts Alliance Co.,Ltd.の土地は、土地使用権に基づき使用しております。
5. Thai G&B Manufacturing Ltd.、G-TEKT India Private Ltd.、Conghua K&S Auto Parts Co.,Ltd.の土地は、賃貸借契約に基づき使用しております。
6. 上記の他、主要なリース設備を下記のとおり有しております。

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	数量	リース期間 (年)	年間リース料 (百万円)	リース契約 残高(百万 円)
群馬工場 (群馬県太田市)	日本	門型マシニングセンタ (所有権移転外ファイ ナンス・リース)	3式	7	29	63
		3次元プレス機 (所有権移転外ファイ ナンス・リース)	2基	7	42	100

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、新規車種の展開、景気予測、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は連結会社各社が原案を作成し、計画策定に当たっては当社と各社間において調整を図っております。

なお、当連結会計年度における重要な設備の新設の計画は次のとおりであります。

(1) 提出会社及び在外子会社

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び 完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
当社埼玉工場	埼玉県 深谷市	日本	自動車部品製造用設備（金型・治工具等）	2,541		自己資金及び借入	平成25年8月	平成27年2月	新規車種生産用設備
G-TEKT (Thailand) Co., Ltd.	タイ・ア ユタヤ県	アジア	自動車部品製造用設備（金型・治工具等）	7,229	1,342	自社資金	平成24年11月	平成28年10月	新規車種生産用設備
G-TEKT Eastern Co., Ltd.	タイ・ラ ヨン県	アジア	自動車部品製造用設備（プレス・溶接設備等）	5,104	1,203	自社資金	平成26年1月	平成28年12月	生産能力増強
			生産拠点の工場の新設	3,535	2,496	自社資金	平成24年9月	平成26年12月	生産能力増強
PT.G-TEKT Indonesia Manufacturing	インドネ シア・西 ジャワ州	アジア	自動車部品製造用設備（金型・治工具等）	3,361	8	自己資金及び借入	平成25年12月	平成28年5月	新規車種生産用設備
			生産拠点の設備の新設	2,737	378	自己資金及び借入	平成24年3月	平成28年12月	生産能力増強
Auto Parts Alliance (China) Ltd.	中国広東 省広州市	中国	自動車部品製造用設備（金型・治工具等）	6,715	2,210	自己資金及び借入	平成24年12月	平成28年10月	新規車種生産用設備
			自動車部品製造用設備（プレス・溶接設備等）	3,765	148	自己資金及び借入	平成25年12月	平成28年12月	生産能力増強

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 経常的な設備の除売却を除き、重要な設備の除売却の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

(注) 平成26年2月28日開催の取締役会決議により、平成26年4月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は50,000,000株増加し、100,000,000株となっております。

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年6月20日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,965,630	43,931,260	(株)東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	(1単位)100株
計	21,965,630	43,931,260		

(注) 平成26年2月28日開催の取締役会決議により、平成26年4月1日付で1株を2株に株式分割いたしました。これにより株式数は21,965,630株増加し、発行済株式総数は43,931,260株となっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年4月1日 (注)1	10,197,530	18,934,730	332	1,863	18,920	20,541
平成24年7月17日 (注)2	2,800,000	21,734,730	2,579	4,443	2,579	23,121
平成24年7月27日 (注)3	230,900	21,965,630	212	4,656	212	23,333

- (注) 1. 平成23年4月1日付の高尾金属工業株式会社との合併によるものであります。
 2. 平成24年7月17日を払込期日とする公募増資によるものであります。
 発行価格1,944円 資本組入額2,579,780,000円
 3. 平成24年7月27日を払込期日とする第三者割当増資によるものであります。
 発行価格1,944円 資本組入額212,739,715円
 4. 平成26年4月1日付をもって1株を2株に株式分割し、これに伴い発行済株式総数が21,965,630株増加して
 おります。

(6) 【所有者別状況】

(平成26年3月31日現在)

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		23	19	39	94		2,204	2,379	
所有株式数 (単元)		17,940	617	95,574	27,392		78,069	219,592	6,430
所有株式数 の割合(%)		8.17	0.28	43.52	12.47		35.55	100.00	

- (注) 1. 自己株式22,234株は、「個人その他」に222単元、「単元未満株式の状況」に34株含まれております。
 2. 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が14単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

(平成26年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
本田技研工業(株)	東京都港区南青山二丁目1番1号	6,517	29.67
高尾 博之	大阪府池田市	3,167	14.42
菊池 俊嗣	東京都三鷹市	1,452	6.61
TKホールディングス(株)	滋賀県甲賀市水口町日電2-20番地	1,072	4.88
(株)ケー・ピー	東京都三鷹市下連雀三丁目8番3号	740	3.37
高尾 直宏	京都府京都市左京区	667	3.04
ビービーエイチ フィデリティ イ ピューリタン フィデリティ イ シリーズ イントリンシツ ク オボチユニテイズ フアン ド (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行)	米国・マサチューセッツ (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	667	3.04
日本トラスティ・サービス信託 銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	658	3.00
ミタカ産業(株)	大阪府豊中市中桜塚三丁目3番4号	398	1.81
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT- TREATY CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	オーストラリア・シドニー (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	320	1.46
計		15,661	71.30

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

(平成26年3月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 22,200		(1単元)100株
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 21,937,000	219,370	同上
単元未満株式	普通株式 6,430		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	21,965,630		
総株主の議決権		219,370	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の株式数の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,400株(議決権の数14個)含まれております。

【自己株式等】

(平成26年3月31日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株)ジーテクト	埼玉県さいたま市大宮区 桜木町一丁目9番地4	22,200		22,200	0.10
計		22,200		22,200	0.10

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	248	0
当期間における取得自己株式	522	0

- (注) 1. 当期間における取得自己株式には、平成26年4月1日付の株式分割(1:2)後の株式分割を記載しております。
2. 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	22,234		44,494	

- (注) 1. 当期間における保有自己株式数には、平成26年4月1日付の株式分割(1:2)後の株式数を記載しております。
2. 当期間における保有自己株式数には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する安定的な配当を基本としつつ、業績、成果に基づく利益還元を継続的に実施することが経営上の重要な政策の一つであると考えております。

このため、企業体質のさらなる強化を図るとともに、新型車部品生産用の設備開発及び海外を含めた将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を立案し、長期的な株主利益の確保を実現していくことを基本方針としております。また、剰余金の配当は、中間配当と期末配当の年2回実施することとしております。

これらの剰余金の配当の決定機関については、「当社は、取締役会の決議によって、会社法第459条第1項各号に掲げる事項を定めることができる」旨を定款に定めております。

当事業年度につきましては、1株につき40円の配当(うち中間配当18円)を決定し、配当性向は10.9%となりました。

内部留保いたしました資金につきましては、今後の新規開発車種への対応を中心とした設備投資並びに海外事業展開の原資といたしたいと考えております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成25年10月31日 取締役会決議	394	18
平成26年6月20日 定時株主総会決議	482	22

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第57期	第58期	第1期	第2期	第3期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	1,842	2,240	2,480	2,920	3,665 1,302
最低(円)	710	1,102	871	1,372	2,200 1,215

(注) 1. 最高・最低株価は、平成22年3月31日以前は(株)ジャスダック証券取引所におけるものであり、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは(株)大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日から平成25年7月15日までは(株)大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成25年7月16日以降は(株)東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

2. 印は、株式分割(平成26年3月27日、1株 2株)による権利落後の株価であります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	2,970	3,665	3,630	3,590	3,030	2,834 1,302
最低(円)	2,631	2,880	3,235	3,050	2,585	2,390 1,215

(注) 1. 最高・最低株価は、(株)東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

2. 印は、株式分割(平成26年3月27日、1株 2株)による権利落後の株価であります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役	社長	菊池俊嗣	昭和20年7月12日生	昭和45年4月 日産自動車(株)入社 昭和53年4月 菊池プレス工業(株)入社 取締役 昭和54年4月 常務取締役 昭和55年12月 代表取締役副社長 昭和59年11月 代表取締役社長 昭和62年7月 (株)ケー・ピー代表取締役社長(現任) 昭和63年5月 Jefferson Industries Corporation取締役(現任) 平成10年11月 (株)中村製作所代表取締役会長 平成11年5月 Austin Tri-Hawk Automotive, Inc.取締役会長 平成11年10月 開発本部長 K E P S 事業部長 平成12年6月 Jefferson Southern Corporation 取締役 平成13年10月 Auto Parts Alliance (China) Ltd. 董事 平成14年4月 営業本部長 生産企画本部長 平成15年12月 C E O 平成17年3月 Wuhan Auto Parts Alliance Co.,Ltd. 董事 平成17年4月 Auto Parts Alliance (China) Ltd. 董事長 平成17年9月 Conghua K&S Auto Parts Co.,Ltd. 董事長 平成19年2月 Global Auto Parts Alliance India Private Ltd. 取締役 平成19年4月 開発本部長 平成23年4月 当社代表取締役社長(現任) Austin Tri-Hawk Automotive, Inc. 取締役(現任) G-TEKT Europe Manufacturing Ltd. 取締役(現任) G-TEKT (Thailand) Co., Ltd. 取締役(現任) Auto Parts Alliance (China) Ltd. 董事(現任) 平成25年4月 G-TEKT North America Corporation 取締役(現任)	(注) 3	2,904

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	副社長 海外事業本 部長	高尾直宏	昭和35年8月27日生	<p>昭和61年4月 高尾金属工業㈱入社 ミタカ産業㈱取締役</p> <p>平成2年6月 業務部長</p> <p>平成5年3月 取締役</p> <p>平成5年8月 開発企画部長</p> <p>平成6年6月 営業本部長</p> <p>平成7年6月 Takao (Thailand) Co., Ltd.(現 G-TEKT (Thailand) Co., Ltd.)取 締役(現任) 代表取締役社長</p> <p>平成8年5月 Takao Eastern Co., Ltd.(現G- TEKT Eastern Co., Ltd.)取締役 (現任) 代表取締役社長</p> <p>平成9年3月 常務取締役</p> <p>平成11年3月 Takao America Corporation(現 G-TEKT America Corporation)取 締役 代表取締役社長</p> <p>平成11年9月 営業本部長兼海外事業本部長</p> <p>平成16年5月 Thai G&B Manufacturing Ltd. 取 締役(現任)</p> <p>平成18年4月 製造本部長</p> <p>平成23年2月 TKホールディングス㈱代表取締役 (現任)</p> <p>平成23年4月 当社専務取締役 海外事業本部長(現任) G-TEKT Europe Manufacturing Ltd.取締役(現任) Global Auto-Parts Alliance India Private Ltd.取締役(現 任) Auto Parts Alliance (China) Ltd. 董事(現任) Wuhan Auto Parts Alliance Co.,Ltd. 董事(現任) Conghua K&S Auto Parts Co.,Ltd. 董事(現任)</p> <p>平成23年11月 G-TEKT India Private Ltd.取締 役(現任)</p> <p>平成24年2月 PT.G-TEKT Indonesia Manufacturing取締役(現任)</p> <p>平成24年6月 ミタカ産業㈱監査役(現任)</p> <p>平成26年4月 取締役副社長(現任)</p>	(注)3	1,335

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
専務取締役	品質保証本部長 経営企画室担当	鈴木 寛	昭和30年5月1日生	昭和53年4月 本田技研工業㈱入社 平成10年11月 購買本部四輪購買企画室 品質企画ブロックリーダー 平成11年9月 購買本部四輪購買企画室 企画ブロックリーダー 平成14年1月 購買本部四輪購買一部 鑄鍛機ブロックリーダー 平成18年4月 本田技研工業(中国)投資有限公司 広州分室所長 平成21年3月 高尾金属工業㈱代表取締役副社長 平成23年3月 Wuhan Auto Parts Alliance Co.,Ltd. 董事 平成23年4月 当社専務取締役(現任) 品質保証本部長(現任) 経営企画室長 Jefferson Industries Corporation取締役(現任) Jefferson Southern Corporation 取締役(現任) Austin Tri-Hawk Automotive, Inc. 取締役(現任) G-TEKT America Corporation取締 役(現任) 平成24年4月 購買部担当 平成25年4月 経営企画室担当(現任)	(注)3	6
常務取締役	技術本部長	構 保	昭和24年1月23日生	昭和43年7月 高尾金属工業㈱入社 昭和62年12月 経営企画室長 昭和63年6月 製造部長 平成5年3月 取締役 平成6年6月 生産本部長 平成9年3月 常務取締役 平成12年4月 技術本部長 平成16年2月 技術本部長兼製造本部長 平成18年4月 技術本部長 平成23年4月 当社常務取締役(現任) 技術本部長(現任)	(注)3	7
常務取締役	営業本部長	米谷 正孝	昭和27年11月15日生	昭和46年4月 菊池プレス工業㈱入社 平成3年10月 技術部長 平成7年12月 製造部長 平成10年12月 取締役 K E P S 事業部副事業部長 K E P S 事業部企画部長 K E P S 事業部生産技術部長 平成11年10月 平成14年10月 営業本部副本部長 平成14年12月 常務執行役員 平成16年10月 営業本部長 Kikuchi USA, Inc. 代表取締役社 長 平成23年4月 当社常務取締役(現任) 営業本部長(現任)	(注)3	43
常務取締役	生産本部長 生産本部埼玉工場長 リスクマネジメント オフィサー	洞 秀明	昭和28年1月1日生	昭和46年3月 高尾金属工業㈱入社 平成9年4月 技術本部技術部長 平成14年3月 取締役 平成14年4月 品質保証本部長 平成17年4月 Auto Parts Alliance(China)Ltd. 董事長総経理 平成23年4月 当社上席執行役員 中国地域本部長 平成25年4月 常務執行役員 生産本部長(現任) 生産本部埼玉工場長(現任) リスクマネジメントオフィサー (現任) 平成25年6月 常務取締役(現任)	(注)3	3

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	購買本部長	石川 美津男	昭和30年11月2日生	昭和53年3月 高尾金属工業㈱入社 平成8年1月 Jefferson Industries Corporation 取締役副社長 平成8年12月 Jefferson Elora Corporation 取締役副社長 平成13年6月 Jefferson Elora Corporation 代表取締役社長 平成14年3月 取締役 平成20年8月 海外事業本部長 平成23年4月 当社取締役 海外事業本部副本部長 平成23年6月 上席執行役員 欧州地域本部長 G-TEKT Europe Manufacturing Ltd. 代表取締役社長 平成25年4月 購買本部長(現任) 平成25年6月 取締役(現任)	(注)3	2
取締役	生産本部副本部長 生産本部滋賀工場長	中西 孝裕	昭和32年3月17日生	昭和55年3月 高尾金属工業㈱入社 平成11年6月 Takao (Thailand) Co., Ltd.(現 G-TEKT (Thailand) Co., Ltd.)代表取締役社長 平成14年8月 製造部長 平成17年3月 取締役 平成17年4月 製造本部長 平成18年4月 営業本部長兼海外事業本部長 平成20年8月 営業本部長 平成23年4月 当社取締役(現任) 生産本部副本部長(現任) 生産本部滋賀工場長(現任)	(注)3	4
取締役	技術本部副本部長	石川 智弘	昭和28年3月25日生	昭和50年4月 菊池プレス工業㈱入社 平成17年10月 事業管理本部経営企画室長 平成18年4月 執行役員 平成19年4月 K E P S 事業部長 平成19年6月 取締役(現任) 平成22年4月 技術本部長 平成23年4月 技術本部副本部長(現任) 平成23年9月 技術管理室長	(注)3	7
取締役	経営企画室長	原 和彦	昭和30年7月9日生	昭和54年4月 菊池プレス工業㈱入社 平成10年2月 I S サービス室長 平成10年12月 経営企画室長代行 平成13年1月 事業管理部副部長 事業管理部企画管理課長 平成16年4月 Jefferson Industries Corporation 取締役副社長 平成19年4月 執行役員 平成23年4月 事業管理本部副本部長 平成25年4月 経営企画室長(現任) 平成25年6月 取締役(現任)	(注)3	32

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	事業管理本部長 コンプライアンス オフィサー 法務部長	吉 沢 勲	昭和32年4月27日生	昭和56年4月 ㈱日本興業銀行(現㈱みずほ銀行)入行 平成15年4月 ㈱みずほコーポレート銀行(現㈱みずほ銀行) 決済営業部次長 平成20年4月 菊池プレス工業㈱入社 事業管理部参事 平成23年4月 当社事業管理本部法務部長(現任) 平成25年4月 執行役員 事業管理本部副本部長(現任) 平成26年4月 上席執行役員 平成26年6月 取締役(現任) コンプライアンスオフィサー(現任)	(注)3	6
取締役		大 胡 誠	昭和33年4月6日生	昭和61年4月 弁護士登録 柳田野村法律事務所(現柳田国際法律事務所)(現任) 平成12年10月 ㈱大和証券グループ本社経営企画第一部及び法務監理部出向 平成14年6月 エヌ・アイ・エフベンチャーズ㈱(現大和企业投資㈱) 監査役 平成23年4月 丸善CHIホールディングス㈱監査役(現任) 平成25年6月 当社取締役(現任)	(注)3	
常勤監査役		菊 池 要	昭和16年10月17日生	昭和32年4月 当社入社 昭和60年1月 取締役営業部長 平成3年10月 常務取締役 営業企画室長 第二営業部長 平成5年11月 Jefferson Industries Corporation代表取締役社長 平成8年12月 常務取締役 営業部担当 平成11年10月 営業本部長 平成14年12月 常務執行役員 富士重工業事業責任者 平成16年12月 Austin Tri-Hawk Automotive, Inc. 取締役 当社取締役 平成18年4月 車体部品事業部副事業部長 平成20年6月 常勤監査役(現任)	(注)5	83
監査役		桑 章 夫	昭和46年8月20日生	平成7年4月 朝日監査法人(現有限責任あずさ監査法人)入所 平成10年8月 公認会計士登録 平成21年6月 ㈱グルメ杵屋 社外監査役(現任) 平成21年9月 ㈱ユニバーサル園芸社 社外監査役(現任) 平成23年6月 当社監査役(現任) 平成23年12月 ㈱アドバンスクリエイト 社外監査役(現任)	(注)4	
監査役		浅 子 正 明	昭和19年11月4日生	昭和47年11月 等松青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)入所 昭和56年3月 公認会計士登録 昭和63年7月 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)社員 平成11年7月 同法人代表社員 平成21年12月 同法人退所 平成22年1月 日本公認会計士協会自主規制業務本部勤務(現任) 平成25年6月 当社監査役(現任)	(注)6	
計						4,437

- (注) 1. 取締役大胡 誠は、社外取締役であります。
 2. 監査役桑 章夫、浅子正明は、社外監査役であります。
 3. 取締役の任期は、平成26年6月20日開催の定時株主総会の終結の時から1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
 4. 任期は、平成23年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
 5. 任期は、平成24年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
 6. 任期は、平成25年6月21日開催の定時株主総会の終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
 7. 当社では、グローバルな企業活動の展開を進めるとともに、経営環境の変化に迅速に対応するため、取締役会を将来に向けての経営方針・戦略の決定機関及び業務監督機関として位置付けするとともに、業務執行の迅速化と責任の明確化を図るため平成14年12月より執行役員制度を導入しております。執行役員は、次の13名であります。

宮崎幸一	常務執行役員	中国地域本部長	Auto Parts Alliance (China) Ltd. 董事長総経理
下垣司郎	常務執行役員	北米地域本部長	Jefferson Industries Corporation 代表取締役社長
小久保正	上席執行役員		Jefferson Southern Corporation 代表取締役社長
宮野 茂	上席執行役員	アジア地域本部長	G-TEKT Eastern Co., Ltd. 代表取締役社長 Thai G&B Manufacturing Ltd. 代表取締役社長
石川隆司	執行役員		G-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V. 代表取締役社長
五十嵐則夫	執行役員	技術本部副本部長	開発部長
近藤 巧	執行役員	富士重工業事業責任者	生産本部栃木工場長
菊池哲雄	執行役員		生産本部群馬工場長
菊池英次	執行役員		海外事業本部副本部長
内山雅保	執行役員	南米地域本部長	G-KT do Brasil Ltda. 代表取締役社長
藤澤恭司	執行役員		事業管理本部副本部長
高山隆一	執行役員		Austin Tri-Hawk Automotive, Inc. 代表取締役社長
瀬古 浩	執行役員	欧州地域本部長	G-TEKT Europe Manufacturing Ltd. 代表取締役社長

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、株主の皆様やお客様をはじめ、取引先、地域社会、従業員等のステークホルダーに存在を永続的に期待される企業となるため、経営環境の変化に対し柔軟かつ機動的に対応し、収益性を確保しつつ、健全で適切な事業運営体制を実現することにあります。

企業統治の体制

企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

・経営管理機構

当社は、取締役会及び監査役会により、業務執行の監督及び監査を行っております。

当社は、取締役会を将来に向けての経営方針、戦略の決定機関及び業務監督機関と位置づけております。取締役会は、取締役12名（うち社外取締役は1名）で構成され、定時又は必要に応じて臨時に開催され、法令、定款及び取締役会規程に定められた事項の決議及び重要な経営意思決定を行うほか、各取締役及び執行役員から業務に関する報告を受け、監視、監督機能を果たしております。なお、経営環境の変化に対応して機動的に経営体制を構築できるよう、取締役の任期を1年としております。

当社は監査役制度を採用しており、監査役は3名（うち常勤監査役は1名、社外監査役は2名）であります。監査役は監査役会を構成し、監査役会において定めた監査の方針、業務の分担等に従い、取締役会へ出席するほか、業務や財産の状況を調査し、取締役の職務遂行の監査を行っております。

・内部統制システムの整備の状況

当社においては、経営環境の変化に柔軟に対応し、経営意思決定の迅速化を図るため代表取締役社長、専務取締役及び常務取締役を主な構成員とする経営会議を設置し、経営に関する重要事項や取締役会に付議する事項に関する事前審議を行うことにしております。また、執行役員制度を採用し、取締役会において選任された執行役員が、取締役会が決定した方針、戦略に従い、代表取締役社長から委譲された権限の範囲内において担当業務を執行しております。執行役員は必要に応じて代表取締役社長へ執行状況を報告するほか、取締役会及びその他会議に出席し、担当責任者として業務の進捗状況、結果等の報告することとなっております。なお、執行役員の任期は1事業年度（1年）としております。

また、組織体制は取締役を本部長とする本部制をとり、分掌業務の明確化、責任の明確化を図るとともに、取締役会、経営会議等において決定された具体的事項に対して、情報の共有化を図り、連携して業務を推進しております。

海外子会社の経営については、海外事業本部がグローバル施策の推進を統括管理するほか、地域本部制により、各地域の地域本部長が現地にて迅速な経営判断を行い、経営会議において重要案件に関する事前協議や定期報告を行うこととしております。なお、海外子会社の経営については、その自主性を尊重しつつ当社の取締役又は執行役員等が当該子会社の役員に就任することにより、当該子会社の業務執行を監督しております。

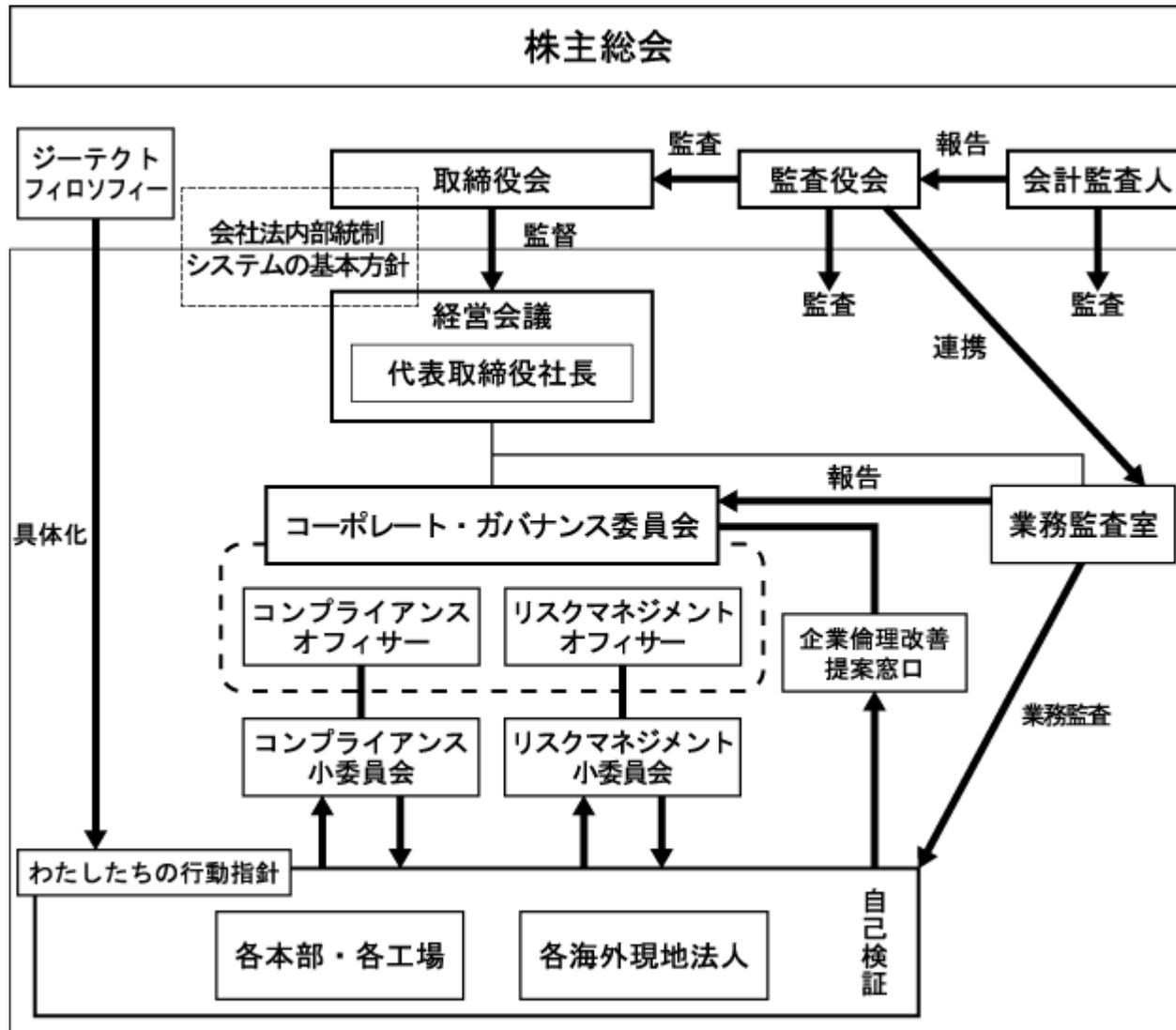
・コンプライアンス体制及びリスク管理体制の整備の状況

当社は、事業活動推進に当たり関係するさまざまな法令を遵守し、考えられる事業上のリスクに適切に対処できる健全な事業運営体制を構築することを目的として、コンプライアンスオフィサー及びリスクマネジメントオフィサーによって構成されるコーポレート・ガバナンス委員会を社内を設置するとともに、各オフィサーと実務担当で構成されるコンプライアンス小委員会及びリスクマネジメント小委員会を設置し、コンプライアンス及びリスクマネジメントの体制整備を図っております。

・その他第三者の当社のコーポレート・ガバナンスへの関与状況

当社は、弁護士と顧問契約を締結し、必要に応じて国内外における諸問題に対する法的見地からのアドバイスを受けるなど、コンプライアンス経営に努めております。また、税務関連業務に関しては、外部専門家である会計事務所によるアドバイスを受けております。

当社の業務執行・経営監視の仕組み、内部統制システムとリスク管理体制を図に表すと下記のとおりであります。



内部監査及び監査役監査

当社は、経営の合理化及び業務の適正な遂行を図るため、業務監査室（4名）を置き、内部監査規程に則り会計、業務、組織・制度、関係会社についての監査を実施しております。当該監査の報告は直接社長になされるほか、監査対象部門に対しては監査結果に併せて改善提言がなされることとなっております。

また、業務監査室は、監査役と相互に情報交換を行う等連携して、内部監査を実施しております。

当社の監査役3名（うち社外監査役は2名）は、監査役会が定めた監査方針、監査計画及び業務分担等に従い、取締役会及び経営会議等の重要会議への出席や、当社各部門及び海外子会社等の業務並びに財産の状況の調査等を通じ、取締役の職務執行及び内部統制システム等について監査を行っております。また、会計監査人と必要の都度相互の情報交換、意見交換を行うなどの連携を密にして、監査の実効性と効率性の向上を目指しております。

業務監査室、監査役会及び会計監査人は、各々の役割を相互認識した上で、監査の実効性をより高めるため、定期的に会合を持ち、情報及び意見の交換等の連携を行っております。

社外取締役及び社外監査役

当社は、社外取締役又は社外監査役を選任する為の独立性に関する基準又は方針はありません。

当社は、次の1名の社外取締役を選任しております。

氏名	当社の企業統治において果たす機能及び役割等
大 胡 誠 (注)	<p>弁護士並びに他社での社外監査役として幅広い見識、豊富な経験を有しており、当社の企業経営の透明性を高めるため、客観的視点から監督を行える人材であると期待し、社外取締役に選任しております。</p> <p>また、金融商品取引所が定める独立性に関する判断基準のいずれの項目にも該当しないため、一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、独立役員として指定しております。</p>

(注) 社外取締役大胡 誠と当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。また、同氏は、他の会社等の社外役員を兼任しておりますが、当社と当該他の会社等との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、次の2名の社外監査役を選任しております。

氏名	当社の企業統治において果たす機能及び役割等
桑 章 夫 (注)	<p>公認会計士として財務及び会計に関する相当程度の知見を有し、会計分野に係る専門的知識と会計監査の豊富な経験を当社の監査体制の強化に活かしていただくため、社外監査役に選任しております。</p> <p>また、当社以外の社外役員を兼任しており、社外監査役として独立かつ中立の視点からの客観的な監査が期待できるほか、金融商品取引所が定める独立性に関する判断基準のいずれの項目にも該当しないため、一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、独立役員として指定しております。</p>
浅 子 正 明 (注)	<p>公認会計士として財務及び会計に関する相当程度の知見を有し、会計分野に係る専門的知識と会計監査の豊富な経験を当社の監査体制の強化に活かしていただくため、社外監査役に選任しております。</p> <p>また、社外監査役として独立かつ中立の視点からの客観的な監査が期待できるほか、金融商品取引所が定める独立性に関する判断基準のいずれの項目にも該当しないため、一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、独立役員として指定しております。</p>

(注) 社外監査役桑 章夫及び浅子正明と当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。また、社外監査役桑 章夫は、他の会社等の社外役員を兼任しておりますが、当社と当該他の会社等との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。なお、社外監査役に対しては、常勤監査役から適時適切に情報提供を行い、情報の共有化を図っております。

役員報酬

(イ) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	362	335			27	12
監査役 (社外監査役を除く。)	22	20			1	1
社外役員	14	14				4

(ロ) 役員ごとの報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(ハ) 役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員の報酬等の額につきましては、株主総会で決議された限度額の範囲内とし、業績その他諸般の事情を考慮して、取締役分については取締役会の承認、監査役分については監査役の協議に基づき決定しております。

株式の保有状況

(イ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 13銘柄
貸借対照表計上額の合計額 1,639百万円

(ロ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
富士重工業(株)	373,438	545	長期的な取引関係の維持、強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	447,170	249	長期的な取引関係の維持、強化
日産自動車(株)	122,364	110	長期的な取引関係の維持、強化
(株)エフ・シー・シー	43,560	98	株式の安定化
(株)滋賀銀行	48,000	30	長期的な取引関係の維持、強化
三井住友トラストホールディングス(株)	64,070	28	長期的な取引関係の維持、強化
阪和興業(株)	81,367	27	長期的な取引関係の維持、強化
アイダエンジニアリング(株)	14,674	11	長期的な取引関係の維持、強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	1,878	7	長期的な取引関係の維持、強化
第一生命保険(株)	48	6	長期的な取引関係の維持、強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	12,580	2	長期的な取引関係の維持、強化
田中精密工業(株)	2,000	1	株式の安定化
日本アジア投資(株)	10,000	1	株式の安定化

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
富士重工業(株)	380,812	1,063	長期的な取引関係の維持、強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	447,170	253	長期的な取引関係の維持、強化
日産自動車(株)	122,364	112	長期的な取引関係の維持、強化
(株)エフ・シー・シー	43,560	80	株式の安定化
阪和興業(株)	91,925	36	長期的な取引関係の維持、強化
三井住友トラストホールディングス(株)	64,070	29	長期的な取引関係の維持、強化
(株)滋賀銀行	48,000	26	長期的な取引関係の維持、強化
アイダエンジニアリング(株)	14,674	14	長期的な取引関係の維持、強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	1,878	8	長期的な取引関係の維持、強化
第一生命保険(株)	4,800	7	長期的な取引関係の維持、強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	12,580	2	長期的な取引関係の維持、強化
田中精密工業(株)	2,000	1	株式の安定化
日本アジア投資(株)	10,000	1	株式の安定化

(八) 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

会計監査の状況

当社は、会社法に基づく会計監査及び金融商品取引法に基づく会計監査に有限責任監査法人トーマツを選任しており、業務監査室及び監査役と連携した監査を受けております。なお、当社の監査業務を執行した公認会計士は高橋 勝氏、東 葎 新氏であり、当該監査業務に係る補助者は公認会計士4名、会計士補等5名であります。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、取締役会の決議により定めることができる旨定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した配当政策の遂行を目的とするものであります。

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を目的とするものであります。

当社は、職務の執行に当たり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定に基づき、取締役会の決議により、同法第423条第1項に定める取締役（取締役であったものも含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨、定款に定めております。

当社は、職務の執行に当たり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定に基づき、取締役会の決議により、同法第423条第1項に定める監査役（監査役であったものも含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨、定款に定めております。

取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	53	3	56	
連結子会社				
計	53	3	56	

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社の連結子会社のうち、Jefferson Industries Corporation、Jefferson Southern Corporation、Jefferson Elora Corporation、Global Auto Parts Alliance India Private Ltd.、G-TEKT India Private Ltd.、Auto Parts Alliance (China) Ltd.、G-KT do Brasil Ltda.につきましては、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているデロイトトウシュートーマツリミテッド（英国の法令に基づく連合組織体）のメンバーファームに対して、監査証明業務及び非監査業務に基づく報酬75百万円を支払っております。

当連結会計年度

当社の連結子会社のうち、Jefferson Industries Corporation、Jefferson Southern Corporation、Jefferson Elora Corporation、Global Auto Parts Alliance India Private Ltd.、G-TEKT India Private Ltd.、Auto Parts Alliance (China) Ltd.、G-KT do Brasil Ltda.につきましては、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているデロイトトウシュートーマツリミテッド（英国の法令に基づく連合組織体）のメンバーファームに対して、監査証明業務及び非監査業務に基づく報酬92百万円を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

当社は会計監査人に対して、公募増資及び第三者割当増資に係るコンフォートレター作成業務についての報酬を支払っております。

当連結会計年度

当社は会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の監査証明業務以外の業務を委託しておりません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、規模・特性・監査日数等を勘案した上で定めております。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)及び事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,746	16,733
受取手形及び売掛金	19,059	26,990
製品	654	735
仕掛品	10,119	16,328
原材料	1,688	2,294
貯蔵品	447	716
繰延税金資産	962	1,084
その他	2,602	3,367
流動資産合計	51,280	68,249
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	51,456	61,013
減価償却累計額	22,181	24,982
建物及び構築物（純額）	29,274	36,031
機械装置及び運搬具	98,072	111,570
減価償却累計額	72,765	83,197
機械装置及び運搬具（純額）	25,306	28,373
工具、器具及び備品	75,269	93,182
減価償却累計額	66,614	77,027
工具、器具及び備品（純額）	8,655	16,154
土地	² 9,722	² 10,470
建設仮勘定	9,366	22,082
有形固定資産合計	82,325	113,111
無形固定資産	1,534	1,900
投資その他の資産		
投資有価証券	¹ 6,735	¹ 8,368
繰延税金資産	2,321	2,280
その他	573	602
貸倒引当金	18	18
投資その他の資産合計	9,612	11,232
固定資産合計	93,472	126,245
資産合計	144,752	194,495

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	13,270	18,267
短期借入金	19,724	15,805
1年内返済予定の長期借入金	5,961	10,765
未払金	6,518	7,772
未払法人税等	451	1,422
賞与引当金	915	905
その他	2,329	8,457
流動負債合計	49,170	63,395
固定負債		
長期借入金	10,989	23,714
退職給付引当金	1,237	-
役員退職慰労引当金	540	569
退職給付に係る負債	-	1,447
繰延税金負債	1,354	1,922
その他	973	2,845
固定負債合計	15,094	30,500
負債合計	64,265	93,895
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,656	4,656
資本剰余金	23,657	23,657
利益剰余金	42,826	50,057
自己株式	20	21
株主資本合計	71,120	78,350
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,468	1,831
繰延ヘッジ損益	16	21
為替換算調整勘定	466	11,053
退職給付に係る調整累計額	-	78
その他の包括利益累計額合計	1,918	12,785
少数株主持分	7,449	9,463
純資産合計	80,487	100,599
負債純資産合計	144,752	194,495

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
売上高	154,518	181,517
売上原価	133,234	156,703
売上総利益	21,283	24,813
販売費及び一般管理費	1, 5 9,890	1, 5 10,692
営業利益	11,392	14,121
営業外収益		
受取利息	254	224
受取配当金	84	103
為替差益	313	285
作業くず売却益	40	74
災害損失引当金戻入額	260	-
その他	340	234
営業外収益合計	1,294	922
営業外費用		
支払利息	686	768
持分法による投資損失	11	361
その他	173	60
営業外費用合計	871	1,190
経常利益	11,815	13,852
特別利益		
固定資産売却益	2 90	2 67
受取保険金	280	-
特別利益合計	371	67
特別損失		
固定資産除却損	3 14	3 -
固定資産売却損	4 14	4 21
特別損失合計	29	21
税金等調整前当期純利益	12,157	13,898
法人税、住民税及び事業税	2,791	4,152
法人税等調整額	822	341
法人税等合計	3,613	4,494
少数株主損益調整前当期純利益	8,544	9,404
少数株主利益	1,006	1,384
当期純利益	7,537	8,020

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	8,544	9,404
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	510	363
繰延ヘッジ損益	16	4
為替換算調整勘定	6,876	11,111
持分法適用会社に対する持分相当額	83	249
その他の包括利益合計	1 7,454	1 11,719
包括利益	15,999	21,124
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	14,036	18,966
少数株主に係る包括利益	1,962	2,157

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,863	20,865	35,923	20	58,632
当期変動額					
剰余金の配当			634		634
当期純利益			7,537		7,537
自己株式の取得				0	0
新株の発行	2,792	2,792			5,585
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	2,792	2,792	6,902	0	12,487
当期末残高	4,656	23,657	42,826	20	71,120

	その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	957		5,538		4,580	6,827	60,879
当期変動額							
剰余金の配当							634
当期純利益							7,537
自己株式の取得							0
新株の発行							5,585
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	510	16	6,004		6,498	621	7,120
当期変動額合計	510	16	6,004		6,498	621	19,608
当期末残高	1,468	16	466		1,918	7,449	80,487

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,656	23,657	42,826	20	71,120
当期変動額					
剰余金の配当			789		789
当期純利益			8,020		8,020
自己株式の取得				0	0
新株の発行					
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			7,230	0	7,230
当期末残高	4,656	23,657	50,057	21	78,350

	その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,468	16	466		1,918	7,449	80,487
当期変動額							
剰余金の配当							789
当期純利益							8,020
自己株式の取得							0
新株の発行							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	363	4	10,587	78	10,867	2,014	12,881
当期変動額合計	363	4	10,587	78	10,867	2,014	20,111
当期末残高	1,831	21	11,053	78	12,785	9,463	100,599

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	12,157	13,898
減価償却費	11,956	14,043
のれん償却額	369	79
退職給付引当金の増減額（ は減少）	138	-
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	-	75
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	40	29
賞与引当金の増減額（ は減少）	8	18
災害損失引当金の増減額（ は減少）	1,694	-
厚生年金基金脱退損失引当金の増減額（ は減少）	1,263	-
受取利息及び受取配当金	338	328
支払利息	686	768
持分法による投資損益（ は益）	11	361
固定資産除売却損益（ は益）	61	46
受取保険金	280	-
売上債権の増減額（ は増加）	63	6,200
たな卸資産の増減額（ は増加）	507	5,783
仕入債務の増減額（ は減少）	1,105	2,852
未収又は未払消費税等の増減額（ は減少）	632	471
前受金の増減額（ は減少）	173	5,717
未払金の増減額（ は減少）	1,133	1,305
その他	410	1,350
小計	21,916	25,021
利息及び配当金の受取額	324	342
保険金の受取額	1,359	-
利息の支払額	629	876
法人税等の還付額	162	97
法人税等の支払額	4,273	3,161
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,860	21,423

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額（ は増加）	934	2,245
有形固定資産の取得による支出	18,181	30,761
有形固定資産の売却による収入	127	98
無形固定資産の取得による支出	132	236
投資有価証券の取得による支出	1,477	70
子会社株式の取得による支出	1,531	1,111
その他	20	21
投資活動によるキャッシュ・フロー	22,150	29,858
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	4,837	5,321
長期借入れによる収入	6,529	23,170
長期借入金の返済による支出	6,406	7,021
割賦債務及びファイナンス・リース債務の返済による支出	53	49
株式の発行による収入	5,553	-
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	634	790
少数株主への配当金の支払額	116	143
財務活動によるキャッシュ・フロー	34	9,843
現金及び現金同等物に係る換算差額	994	1,581
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	2,261	2,990
現金及び現金同等物の期首残高	15,387	13,126
現金及び現金同等物の期末残高	13,126	16,117

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 17社

連結子会社の名称

Jefferson Industries Corporation

Jefferson Southern Corporation

Austin Tri-Hawk Automotive, Inc.

G-TEKT America Corporation

G-TEKT North America Corporation

Jefferson Elora Corporation

G-TEKT Europe Manufacturing Ltd.

G-TEKT (Thailand) Co., Ltd.

G-TEKT Eastern Co., Ltd.

Thai G&B Manufacturing Ltd.

Global Auto-Parts Alliance India Private Ltd.

G-TEKT India Private Ltd.

PT.G-TEKT Indonesia Manufacturing

Auto Parts Alliance (China) Ltd.

Wuhan Auto Parts Alliance Co., Ltd.

Conghua K&S Auto Parts Co.,Ltd.

G-KT do Brasil Ltda.

当連結会計年度において、子会社としてアメリカ・オハイオ州にG-TEKT North America Corporationを設立し、連結の範囲に含めております。

(2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社の名称

G-TEKT MEXICO CORP S.A. DE C.V.

PT.Auto-Body Manufacturing Indonesia

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社の数 1社

会社等の名称

G-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V.

(2) 持分法の適用の手續について特に記載する必要があると認められる事項

G-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V.の決算日は12月31日であるため、同日現在の財務諸表を使用しており、連結決算日との間に発生した重要な取引については連結決算上必要な調整を行っております。

(3) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称等

会社の名称

(非連結子会社)

G-TEKT MEXICO CORP S.A. DE C.V.

PT.Auto-Body Manufacturing Indonesia

(関連会社)

該当事項はありません。

持分法を適用していない理由

持分法を適用していない非連結子会社または関連会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないためであります。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、Austin Tri-Hawk Automotive, Inc.、G-TEKT America Corporation、PT.G-TEKT Indonesia Manufacturing、G-TEKT Europe Manufacturing Ltd.、G-TEKT (Thailand) Co., Ltd.、G-TEKT Eastern Co., Ltd.、Thai G&B Manufacturing Ltd.、Auto Parts Alliance (China) Ltd.、Wuhan Auto Parts Alliance Co., Ltd.、Conghua K&S Auto Parts Co.,Ltd.及びG-KT do Brasil Ltda.の決算日は12月31日であるため、同日現在の財務諸表を使用しており、連結決算日との間に発生した重要な取引については、連結決算上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ取引により生ずる債権及び債務

時価法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品及び仕掛品

主として総平均法による原価法(連結貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

一部の製品及び仕掛品については、個別法による原価法(連結貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法より算定)

原材料

主として移動平均法による原価法(連結貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(連結貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～65年

機械装置及び運搬具 2年～25年

工具器具及び備品 2年～20年

無形固定資産

ソフトウェア

ソフトウェア(自社利用)の減価償却の方法は、社内における利用可能期間(2年～5年)に基づく定額法によっております。

土地使用権

一部の在外連結子会社の土地使用権であり、土地使用契約期間(主に50年)に基づき、每期均等償却しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

当社及び一部の在外連結子会社は、従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額の100%を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外連結子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。

なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理に、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

a.ヘッジ手段・・・為替予約

ヘッジ対象・・・製品輸出による外貨建売上債権

b.ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金変動金利

ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規定及び取引限度額等を定めた内部規程に基づき、ヘッジ対象に係る為替相場変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動とヘッジ手段の相場変動を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。ただし、振当処理の要件を満たしている為替予約及び特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(6) 退職給付に係る負債の計上基準

当社及び一部の在外連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

また、数理計算上の差異については各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。但し、金額が僅少の場合には発生時の損益として処理しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等(消費税及び地方消費税)の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を退職給付に係る負債に計上いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が1,447百万円計上されております。また、その他の包括利益累計額が78百万円減少しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等を適用することにより、翌連結会計年度の期首の退職給付に係る負債が70百万円減少し、利益剰余金が45百万円増加する予定です。また、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ17百万円増加する予定です。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「持分法による投資損失」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた185百万円は、「持分法による投資損失」11百万円、「その他」173百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1. 非連結子会社及び関連会社に対する主な資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
投資有価証券(株式)	2,243百万円	3,354百万円

2. 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
圧縮記帳額	149百万円	149百万円
(うち、土地)	149百万円	149百万円

(連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
荷造運搬費	1,968百万円	1,902百万円
給料及び手当	2,272百万円	2,615百万円
賞与引当金繰入額	165百万円	158百万円
退職給付引当金繰入額	129百万円	131百万円
役員退職慰労引当金繰入額	40百万円	49百万円

2. 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
機械装置及び運搬具	70百万円	62百万円
工具器具及び備品	20百万円	4百万円
計	90百万円	67百万円

3. 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物及び構築物	7百万円	
機械装置及び運搬具	4百万円	
工具器具及び備品	3百万円	
計	14百万円	

4. 固定資産売却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物及び構築物		1百万円
機械装置及び運搬具	13百万円	19百万円
工具器具及び備品	1百万円	0百万円
計	14百万円	21百万円

5. 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	415百万円	459百万円

(連結包括利益計算書関係)

1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	789百万円	562百万円
組替調整額		
税効果調整前	789百万円	562百万円
税効果額	279百万円	198百万円
その他有価証券評価差額金	510百万円	363百万円
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	26百万円	7百万円
組替調整額		
税効果調整前	26百万円	7百万円
税効果額	9百万円	2百万円
繰延ヘッジ損益	16百万円	4百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	6,866百万円	11,126百万円
組替調整額		
税効果調整前	6,866百万円	11,126百万円
税効果額	10百万円	15百万円
為替換算調整勘定	6,876百万円	11,111百万円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	83百万円	249百万円
その他の包括利益合計	7,454百万円	11,719百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)1	18,934,730	3,030,900		21,965,630
合計	18,934,730	3,030,900		21,965,630
自己株式				
普通株式(注)2	21,910	76		21,986
合計	21,910	76		21,986

(注) 1. 増加数の内訳は、次のとおりであります。
 公募による新株の発行による増加 2,800,000株
 第三者割当による新株の発行による増加 230,900株
 2. 単元未満株式の買取りによる増加 76株

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	283	15	平成24年3月31日	平成24年6月25日
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	351	16	平成24年9月30日	平成24年12月10日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	394	利益剰余金	18	平成25年3月31日	平成25年6月24日

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	21,965,630			21,965,630
合計	21,965,630			21,965,630
自己株式				
普通株式(注)	21,986	248		22,234
合計	21,986	248		22,234

(注) 増加数の内訳は、次のとおりであります。
単元未満株式の買取りによる増加 248株

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	394	18	平成25年3月31日	平成25年6月24日
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	394	18	平成25年9月30日	平成25年12月4日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月20日 定時株主総会	普通株式	482	利益剰余金	22	平成26年3月31日	平成26年6月23日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金及び預金勘定	15,746百万円	16,733百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	2,619百万円	616百万円
現金及び現金同等物	13,126百万円	16,117百万円

(リース取引関係)

リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)			当連結会計年度 (平成26年3月31日)		
	取得価額 相当額	減価償却 累計額相当額	期末残高 相当額	取得価額 相当額	減価償却 累計額相当額	期末残高 相当額
機械装置及び運搬具	541百万円	362百万円	178百万円	541百万円	395百万円	145百万円
合計	541百万円	362百万円	178百万円	541百万円	395百万円	145百万円

2. 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1年内	63百万円	155百万円
1年超	155百万円	
合計	219百万円	155百万円

3. 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
支払リース料	98百万円	71百万円
減価償却費相当額	46百万円	33百万円
支払利息相当額	9百万円	6百万円

4. 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を10%として定率法で計算した各期の減価償却費相当額に10/9を乗じた額を減価償却費相当額とする方法によっております。

5. 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針です。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を半期ごとに把握する体制としております。また、外貨建営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。当該リスクを軽減するため、為替予約をヘッジ手段として利用しております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役会に報告されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日です。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金（原則として5年以内）は主に設備投資に係る資金調達です。変動金利による借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のものの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引（金利スワップ取引）をヘッジ手段として利用しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従って行っており、また、デリバティブの利用に当たっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジ有効性評価の方法については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.会計処理基準に関する事項(5)重要なヘッジ会計の方法」を参照ください。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「(デリバティブ取引関係)注記」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含まれておりません。(注2)参照

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額(*1)	時価(*1)	差額
(1) 現金及び預金	15,746	15,746	
(2) 受取手形及び売掛金	19,059	19,059	
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	4,418	4,418	
(4) 買掛金及び未払金	(19,789)	(19,789)	
(5) 短期借入金	(19,724)	(19,724)	
(6) 長期借入金	(16,950)	(16,979)	(29)
(7) デリバティブ取引(*2)	(26)	(26)	

(*1) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額(*1)	時価(*1)	差額
(1) 現金及び預金	16,733	16,733	
(2) 受取手形及び売掛金	26,990	26,990	
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	5,051	5,051	
(4) 買掛金及び未払金	(26,039)	(26,039)	
(5) 短期借入金	(15,805)	(15,805)	
(6) 長期借入金	(34,479)	(34,527)	(47)
(7) デリバティブ取引(*2)	(96)	(96)	

(*1) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法及びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、(有価証券関係)注記を参照ください。

(4) 買掛金及び未払金並びに(5)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており((デリバティブ取引関係)注記参照)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借り入れを行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(7) デリバティブ取引

(デリバティブ取引関係)注記を参照ください。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成25年3月31日	平成26年3月31日
非上場株式	2,317	3,317

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位: 百万円)

	1年以内
現金及び預金	15,746
受取手形及び売掛金	19,059
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	
合計	34,805

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位: 百万円)

	1年以内
現金及び預金	16,733
受取手形及び売掛金	26,990
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	
合計	43,723

(注4) 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位: 百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	19,724					
長期借入金	5,961	5,012	2,269	2,097	1,585	25
リース債務	4	1				
合計	25,690	5,013	2,269	2,097	1,585	25

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位: 百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	15,805					
長期借入金	10,765	9,467	7,853	3,065	2,355	971
リース債務	195	351	337	361	395	203
合計	26,757	9,819	8,190	3,427	2,751	1,175

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位：百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	4,390	2,118	2,272
債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
その他			
小計	4,390	2,118	2,272
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	27	28	1
債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
その他			
小計	27	28	1
合計	4,418	2,146	2,271

当連結会計年度(平成26年3月31日)

(単位：百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	5,051	2,217	2,833
債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
その他			
小計	5,051	2,217	2,833
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式			
債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
その他			
小計			
合計	5,051	2,217	2,833

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

区分	デリバティブ取引の種類等	契約額等	契約額等のうち1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建 円	1,643		63	63
合計		1,643		63	63

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(1) 通貨関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
原則的処理方法	為替予約取引				
	売建 英ポンド	売掛金	66		1
合計			66		1

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
原則的処理方法	金利スワップ取引				
	支払固定・受取変動	長期借入金	1,269	1,269	24
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引	長期借入金	843	100	(注) 2
合計			2,112	1,369	24

(注) 1. 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(1) 通貨関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
原則的処理方法	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	718		33
合計			718		33

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	1,489	1,111	(注)
合計			1,489	1,111	

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、一部の在外連結子会社は確定拠出型の年金制度を設けております。

このほか当社は、複数事業主制度に係る企業年金制度として、東京金属事業厚生年金基金(総合型)に加入しておりましたが、平成25年2月28日付けで同基金から脱退し、それに代わる新制度として、確定拠出年金制度を導入しております。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項
該当事項はありません。

2. 退職給付債務に関する事項

(1) 退職給付債務(百万円)	4,882
(2) 年金資産(百万円)	3,149
(3) 未積立退職給付債務(百万円) (1) + (2)	1,732
(4) 未認識数理計算上の差異(百万円)	310
(5) 未認識過去勤務債務(百万円)	184
(6) 連結貸借対照表計上額純額(百万円) (3) + (4) + (5)	1,237
(7) 退職給付引当金(百万円)	1,237

3. 退職給付費用に関する事項

(1) 勤務費用(百万円)	283
(2) 利息費用(百万円)	82
(3) 期待運用収益(百万円)	52
(4) 過去勤務債務の費用処理額(百万円)	54
(5) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	128
(6) 確定拠出年金への掛金支払額(百万円)	152
(7) 総合型厚生年金掛金(百万円)	301
(8) 退職給付費用合計(百万円)	951

(注) 1. 総合型厚生年金掛金については、法定福利費として計上しております。

2. 当社は、上記退職給付費用以外に、厚生年金基金脱退に伴う費用1,346百万円を支払っております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 割引率(%)	1.2
(2) 期待運用収益率(%)	2.0
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(4) 過去勤務債務の額の処理年数(年)	5
(5) 数理計算上の差異の処理年数(年)	5

(注) 期首時点の計算において適用した割引率は2.0%でありましたが、期末時点において再検討を行った結果、割引率の変更により退職給付債務の額に影響を及ぼすと判断し、割引率を1.2%に変更しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、当社及び一部の在外連結子会社は確定拠出型の年金制度を設けております。

2. 確定給付制度(簡便法を適用した制度を除く。)

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	4,882 百万円
勤務費用	326 百万円
利息費用	56 百万円
数理計算上の差異の発生額	12 百万円
退職給付の支払額	187 百万円
その他	13 百万円
<u>退職給付債務の期末残高</u>	<u>5,103 百万円</u>

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	3,149 百万円
期待運用収益	62 百万円
数理計算上の差異の発生額	234 百万円
事業主からの拠出額	365 百万円
退職給付の支払額	157 百万円
<u>年金資産の期末残高</u>	<u>3,655 百万円</u>

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	5,042 百万円
年金資産	3,655 百万円
	<u>1,386 百万円</u>
非積立型制度の退職給付債務	60 百万円
<u>連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額</u>	<u>1,447 百万円</u>
退職給付に係る負債	1,447 百万円
退職給付に係る資産	百万円
<u>連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額</u>	<u>1,447 百万円</u>

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	326 百万円
利息費用	56 百万円
期待運用収益	62 百万円
数理計算上の差異の費用処理額	105 百万円
過去勤務費用の費用処理額	45 百万円
<u>確定給付制度に係る退職給付費用</u>	<u>471 百万円</u>

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識過去勤務費用	139 百万円
未認識数理計算上の差異	17 百万円
合計	121 百万円

(6) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	37%
株式	30%
一般勘定	29%
その他	4%
合計	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表している。）

割引率	1.2%
長期期待運用収益率	2.0%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、300百万円でありました。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(流動)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税否認	30	73
賞与引当金損金算入限度超過額	333	315
その他	609	715
繰延税金資産小計	974	1,102
評価性引当額		0
繰延税金資産合計	974	1,101
繰延税金負債		
減価償却費認容額	158	149
その他	5	0
繰延税金負債合計	164	149
繰延税金資産の純額	810	952

(固定)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
減価償却費損金算入限度超過額	881	1,062
退職給付引当金損金算入限度超過額	417	441
役員退職慰労引当金	191	201
固定資産の内部未実現利益	369	315
固定資産評価差額	1,139	1,104
在外子会社投資差額	1,516	1,517
在外子会社の繰越欠損金等	55	51
その他	308	344
繰延税金資産小計	4,878	5,039
評価性引当額	1,200	1,144
繰延税金資産合計	3,677	3,894
繰延税金負債		
買換資産圧縮積立金	18	17
その他有価証券評価差額金	1,077	1,276
在外子会社の減価償却差額	1,458	1,800
固定資産評価差額	114	114
その他	41	328
繰延税金負債合計	2,710	3,537
繰延税金資産の純額	967	357

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
国内の法定実効税率	37.8%	37.8%
(調整)		
受取配当金等益金不算入	0.1%	0.1%
海外連結子会社の税率差異	7.8%	7.3%
外国税額控除	1.0%	0.5%
連結子会社からの受取配当金	0.4%	0.4%
持分法による投資損失	0.0%	1.0%
その他	0.4%	1.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.7%	32.3%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の37.8%から35.4%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が32百万円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が32百万円増加しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

埼玉工場等の建物に関する、建設リサイクル法に基づく負担義務であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から10～36年と見積り、割引率は1.1295%～2.193%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
期首残高	191百万円	196百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	5百万円	
時の経過による調整額	2百万円	1百万円
資産除去債務の履行による減少額	3百万円	
期末残高	196百万円	198百万円

(賃貸等不動産関係)

当社グループは、東京都、群馬県、栃木県及び滋賀県において賃貸用土地等を有しております。

平成25年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は29百万円(賃貸収益は営業外収益に、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上)であります。

平成26年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は61百万円(賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	698
	期中増減額	202
	期末残高	900
期末時価	1,088	1,067

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は、事業用資産から賃貸等不動産への振替(202百万円)であります。
3. 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、車体プレス部品、厚物精密プレス部品等の輸送用機器部品の製造・販売を主な事業としている専門メーカーであり、国内においては当社が、海外においては北米、欧州、アジア、中国、南米の各現地法人がそれぞれ製造・販売しております。現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱う製品について各地域毎に、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは生産・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」、「北米」、「欧州」、「アジア」、「中国」及び「南米」の6つを報告セグメントとしております。

また、当連結会計年度において、子会社としてアメリカ・オハイオ州にG-TEKT North America Corporationを設立し、新たに「北米」セグメントに加えております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されているセグメントの会計の処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

セグメント間の内部売上高又は振替高は市場価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント						合計
	日本	北米	欧州	アジア	中国	南米	
売上高							
外部顧客への売上高	38,725	55,495	9,728	23,421	21,362	5,784	154,518
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,241	71	1	17	328	0	10,660
計	48,966	55,566	9,730	23,439	21,690	5,784	165,178
セグメント利益 又は損失()	3,353	1,874	1,113	3,370	1,054	707	11,473
セグメント資産	93,486	32,167	8,670	28,544	25,443	4,901	193,215
セグメント負債	34,980	12,924	1,442	7,732	12,129	564	69,772
その他の項目							
減価償却費	4,637	2,854	592	1,410	2,670	344	12,509
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	4,774	2,299	79	6,823	3,767	560	18,303

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント						合計
	日本	北米	欧州	アジア	中国	南米	
売上高							
外部顧客への売上高	41,519	60,613	9,472	32,550	30,698	6,662	181,517
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8,493	341	2	107	1,179		10,124
計	50,012	60,955	9,474	32,658	31,878	6,662	191,642
セグメント利益 又は損失()	3,179	2,558	889	4,010	2,982	465	14,085
セグメント資産	113,723	38,494	11,467	37,281	37,600	9,529	248,097
セグメント負債	49,132	13,773	1,738	10,898	19,039	4,665	99,247
その他の項目							
減価償却費	4,637	2,898	612	2,208	3,566	417	14,340
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	11,378	6,382	456	8,733	5,108	863	32,923

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	165,178	191,642
セグメント間取引消去等	10,660	10,124
連結財務諸表の売上高	154,518	181,517

(単位:百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	11,473	14,085
セグメント間取引消去等	288	115
のれんの償却額	369	79
連結財務諸表の営業利益	11,392	14,121

(単位:百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	193,215	248,097
セグメント間取引消去等	48,462	53,602
連結財務諸表の資産合計	144,752	194,495

(単位:百万円)

負債	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	69,772	99,247
セグメント間取引消去等	5,507	5,351
連結財務諸表の負債合計	64,265	93,895

(単位:百万円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	12,509	14,340	553	296	11,956	14,043
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	18,303	32,923	268	353	18,035	32,570

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

車体プレス部品、厚物精密部品等の輸送用機器部品の製造・販売を主な事業としているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
本田技研工業(株)	22,618	日本
Honda of America Mfg., Inc.	18,934	北米

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

車体プレス部品、厚物精密部品等の輸送用機器部品の製造・販売を主な事業としているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
本田技研工業(株)	22,765	日本
Honda of America Mfg., Inc.	18,325	北米

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

金額的重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1)連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア)連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等

前連結会計年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他 の関係 会社	本田技研工業 (株)	東京都 港区	86,067	原動機及び 輸送用機械 器具、農機 具、その他 原動機を利用 した機械器 具の製造及 び販売	(被所有) 直接 29.71	製品の販売 並びに原材 料及び部品 の購入	当社製品の 販売	22,618	売掛金	2,565
									前受金	278
							原材料の購 入	8,620	買掛金	1,076
									未払金	773

当連結会計年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他 の関係 会社	本田技研工業 (株)	東京都 港区	86,067	原動機及び 輸送用機械 器具、農機 具、その他 原動機を利用 した機械器 具の製造及 び販売	(被所有) 直接 29.71	製品の販売 並びに原材 料及び部品 の購入	当社製品の 販売	22,765	売掛金	3,248
									前受金	446
							原材料の購 入	8,399	買掛金	1,504
									未払金	432

(注) 1.記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2.取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 販売価格の決定方法は、経済合理性に基づき市場価格及び当社の生産技術などを勘案して見積書を作成し、それを得意先に提出のうえ、価格交渉を行い決定しております。
- (2) 製品(金型等)の販売に係る生産打ち切りによる金型等補償金の決定方法は、得意先の生産打ち切り等により発生する金型制作費等の未回収部分を勘案して作成した補償申請書を提出のうえ、交渉を行い決定しております。
- (3) 原材料の購入については、市場価格を参考に価格交渉のうえ、決定しております。

(イ)連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会 社	G-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V	メキシ コ・グア ナファト 州	391百万 ペソ	自動車用車 体プレス部 品の製造・ 販売	(所有) 直接 50.00	製品及び設 備の販売	債務保証	2,573		

(注) 1.記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2.取引条件及び取引条件の決定方針等

銀行借入(5,146百万円、最終償還期限2018年8月)につき、債務保証を行ったものであります。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他の関係会社の子会社	Honda of America Mfg., Inc.	米国オハイオ州	578千米ドル	二輪車、四輪車の生産販売	なし	製品及び設備の販売	製品及び設備の販売	18,934	売掛金	1,637
その他の関係会社の子会社	Honda Trading America Corp.	米国カリフォルニア州	7,634千米ドル	内外物資の輸出入及び販売	なし	原材料及び部品の購入	原材料の購入	17,931	買掛金	3,066
その他の関係会社の子会社	Honda Automobile (Thailand) Co., Ltd.	タイ・アユタヤ県	5,460千タイバーツ	四輪車の生産販売	なし	製品の販売	製品の販売	6,445	売掛金	1,695

(注) 1. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 販売価格の決定方法は、経済合理性に基づき市場価格及び当社の生産技術などを勘案して見積書を作成し、それを得意先に提出のうえ、価格交渉を行い決定しております。

(2) 原材料の購入については、市場価格を参考に価格交渉のうえ、決定しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他の関係会社の子会社	Honda of America Mfg., Inc.	米国オハイオ州	578千米ドル	二輪車、四輪車の生産販売	なし	製品及び設備の販売	製品及び設備の販売	18,325	売掛金	1,541
その他の関係会社の子会社	Honda Trading America Corp.	米国カリフォルニア州	7,634千米ドル	内外物資の輸出入及び販売	なし	原材料及び部品の購入	原材料の購入	19,926	買掛金	4,024
その他の関係会社の子会社	Honda Automobile (Thailand) Co., Ltd.	タイ・アユタヤ県	5,460千タイバーツ	四輪車の生産販売	なし	製品の販売	製品の販売	10,601	売掛金	1,066

(注) 1. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 販売価格の決定方法は、経済合理性に基づき市場価格及び当社の生産技術などを勘案して見積書を作成し、それを得意先に提出のうえ、価格交渉を行い決定しております。

(2) 原材料の購入については、市場価格を参考に価格交渉のうえ、決定しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額並びに1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額	1,664円 22銭	2,076円 61銭

項目	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益金額	179円 05銭	182円 76銭
(算定上の基礎)		
当期純利益(百万円)	7,537	8,020
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	7,537	8,020
期中平均株式数(株)	42,097,634	43,887,008

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、平成26年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり情報を算定しております。
3. 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。
- この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額が、1.79円減少しております。

(重要な後発事象)

株式の分割について

当社は、平成26年2月28日開催の取締役会決議に基づき、平成26年4月1日付で、次のとおり株式の分割を実施いたしました。

(1) 株式分割の目的

投資家の皆様に、より投資しやすい環境を整えるため、株式分割を行い投資単位当たりの金額を引き下げることにより、当社株式の流動性の向上と投資家層の更なる拡大を目的とするものであります。

(2) 株式分割の概要

株式分割の方法

平成26年3月31日(月曜日)を基準日として、同日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する普通株式1株につき2株の割合をもって分割いたしました。

分割により増加した株式数

株式分割前の発行済株式総数 21,965,630株

分割により増加した株式数 21,965,630株

株式分割後の発行済株式総数 43,931,260株

株式分割後の発行可能株式総数 100,000,000株

(3) その他

資本金の金額の変更

株式分割に際しまして、資本金の額の変更はありません。

【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	19,724	15,805	1.31	
1年以内に返済予定の長期借入金	5,961	10,765	2.09	
1年以内に返済予定のリース債務	4	195	10.64	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	10,989	23,714	1.59	平成26年～平成33年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1	1,648	10.21	平成26年～平成31年
その他有利子負債				
合計	36,680	52,120		

(注) 1. 平均利率については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	9,467	7,853	3,065	2,355
リース債務	351	337	361	395

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が、連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

	第1四半期 連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	第2四半期 連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	第3四半期 連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	第3期 連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
売上高 (百万円)	43,217	86,571	131,614	181,517
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	3,241	6,381	10,034	13,898
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	1,946	3,746	6,162	8,020
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	44.36	85.36	140.42	182.76

	第1四半期 連結会計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	第2四半期 連結会計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年9月30日)	第3四半期 連結会計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)	第4四半期 連結会計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	44.36	41.00	55.06	42.34

(注) 当社は、平成26年4月1日付けで普通株式1株につき普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。そのため、当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年 3月31日)	当事業年度 (平成26年 3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,980	1,902
受取手形	751	722
売掛金	1 6,482	1 8,801
製品	129	139
仕掛品	2,679	7,727
原材料	147	227
貯蔵品	256	430
前払金	308	134
繰延税金資産	449	463
未収入金	1,730	2,100
短期貸付金	2,351	926
その他	562	1,372
流動資産合計	18,830	24,947
固定資産		
有形固定資産		
建物	9,002	8,677
構築物	273	226
機械及び装置	4,258	4,379
車両運搬具	116	140
工具、器具及び備品	3,514	5,134
土地	3 7,717	3 7,717
建設仮勘定	2,196	6,365
有形固定資産合計	27,079	32,640
無形固定資産		
借地権	80	80
ソフトウェア	101	108
電話加入権	8	8
無形固定資産合計	190	197
投資その他の資産		
投資有価証券	1,122	1,639
関係会社株式	43,619	47,004
関係会社長期貸付金	-	1,389
繰延税金資産	1,522	1,372
その他	327	336
貸倒引当金	18	18
投資その他の資産合計	46,572	51,723
固定資産合計	73,843	84,561
資産合計	92,673	109,508

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 3,159	1 4,524
短期借入金	13,551	12,326
1年内返済予定の長期借入金	3,847	6,547
未払金	2,624	3,025
前受金	528	2,112
未払費用	18	101
未払法人税等	106	861
預り金	218	116
賞与引当金	858	829
その他	29	36
流動負債合計	24,943	30,482
固定負債		
長期借入金	8,090	16,115
退職給付引当金	1,139	1,183
役員退職慰労引当金	540	569
資産除去債務	196	198
その他	71	59
固定負債合計	10,037	18,127
負債合計	34,980	48,609
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,656	4,656
資本剰余金		
資本準備金	23,333	23,333
その他資本剰余金	323	323
資本剰余金合計	23,657	23,657
利益剰余金		
利益準備金	369	369
その他利益剰余金		
買換資産積立金	33	31
別途積立金	10,800	10,800
繰越利益剰余金	16,744	19,595
利益剰余金合計	27,947	30,795
自己株式	20	21
株主資本合計	56,241	59,088
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,468	1,831
繰延ヘッジ損益	16	21
評価・換算差額等合計	1,451	1,810
純資産合計	57,692	60,898
負債純資産合計	92,673	109,508

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
売上高	2 48,966	2 50,012
売上原価	40,744	41,827
売上総利益	8,221	8,185
販売費及び一般管理費	1 4,885	1 4,999
営業利益	3,335	3,185
営業外収益		
受取利息	6	48
受取配当金	1,209	1,726
為替差益	301	83
作業くず売却益	31	51
その他	246	157
営業外収益合計	1,794	2,067
営業外費用		
支払利息	170	206
厚生年金基金脱退損失	83	-
株式交付費	35	-
その他	3	6
営業外費用合計	293	213
経常利益	4,836	5,040
特別利益		
固定資産売却益	74	21
特別利益合計	74	21
特別損失		
固定資産除却損	7	-
固定資産売却損	0	0
特別損失合計	8	0
税引前当期純利益	4,903	5,060
法人税、住民税及び事業税	948	1,482
法人税等調整額	521	59
法人税等合計	1,470	1,422
当期純利益	3,432	3,637

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
. 材料費	1	17,297	42.9	18,023	37.4
. 外注加工費		7,099	17.6	13,490	28.0
. 労務費		7,794	19.4	8,317	17.2
. 経費		8,087	20.1	8,422	17.5
当期総製造費用		40,279	100.0	48,253	100.0
期首仕掛品たな卸高		3,893		2,679	
合併による仕掛品受入高					
合計		44,172		50,933	
他勘定振替高		787		1,368	
期末仕掛品たな卸高		2,679		7,727	
当期製品製造原価	2	40,705		41,837	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(百万円)	当事業年度(百万円)
減価償却費	4,660	4,737
リース料	106	84
電力料	553	704

2 当期製品製造原価と売上原価の調整表

区分	前事業年度(百万円)	当事業年度(百万円)
当期製品製造原価	40,705	41,837
期首製品たな卸高	168	129
合計	40,874	41,966
期末製品たな卸高	129	139
売上原価	40,744	41,827

(原価計算の方法)

量産品

工程別総合原価計算を採用しております。

金型設備等

個別原価計算を採用しております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,863	20,541	323	20,865
当期変動額				
新株の発行	2,792	2,792		2,792
買換資産積立金の取崩				
税率変更による積立金の調整額				
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	2,792	2,792		2,792
当期末残高	4,656	23,333	323	23,657

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		その他利益剰余金			
		買換資産積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	369	36	10,800	13,944	25,149
当期変動額					
新株の発行					
買換資産積立金の取崩		2		2	
税率変更による積立金の調整額					
剰余金の配当				634	634
当期純利益				3,432	3,432
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		2		2,800	2,797
当期末残高	369	33	10,800	16,744	27,947

(単位：百万円)

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	20	47,858	957		957	48,816
当期変動額						
新株の発行		5,585				5,585
買換資産積立金の取崩						
税率変更による積立金の調整額						
剰余金の配当		634				634
当期純利益		3,432				3,432
自己株式の取得	0	0				0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			510	16	493	493
当期変動額合計	0	8,382	510	16	493	8,876
当期末残高	20	56,241	1,468	16	1,451	57,692

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	4,656	23,333	323	23,657
当期変動額				
新株の発行				
買換資産積立金の取崩				
税率変更による積立金の調整額				
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	4,656	23,333	323	23,657

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		その他利益剰余金			
		買換資産積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	369	33	10,800	16,744	27,947
当期変動額					
新株の発行					
買換資産積立金の取崩		2		2	
税率変更による積立金の調整額		0		0	
剰余金の配当				789	789
当期純利益				3,637	3,637
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		2		2,850	2,848
当期末残高	369	31	10,800	19,595	30,795

(単位：百万円)

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	20	56,241	1,468	16	1,451	57,692
当期変動額						
新株の発行						
買換資産積立金の取崩						
税率変更による積立金の調整額						
剰余金の配当		789				789
当期純利益		3,637				3,637
自己株式の取得	0	0				0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			363	4	358	358
当期変動額合計	0	2,847	363	4	358	3,205
当期末残高	21	59,088	1,831	21	1,810	60,898

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(3) デリバティブ取引により生じる正味の債権(及び債務)の評価基準及び評価方法

時価法

(4) たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品及び仕掛品

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

一部の製品及び仕掛品については、個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

原材料

移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3年～65年

機械及び装置 2年～10年

工具器具及び備品 2年～20年

(2) 無形固定資産

ソフトウェア(自社利用)の減価償却の方法は、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

また、数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額の100%を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(2) ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。

なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理に、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

a.ヘッジ手段・・・為替予約

ヘッジ対象・・・製品輸出による外貨建売上債権

b.ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金変動金利

ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規定及び取引限度額等を定めた内部規程に基づき、ヘッジ対象に係る為替相場変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動とヘッジ手段の相場変動を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。ただし、振当処理の要件を満たしている為替予約及び特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(3) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第26条に定める減価償却累計額の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第86条に定める研究開発費の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1. 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期金銭債権	8,443百万円	9,614百万円
短期金銭債務	2,131百万円	2,585百万円

2. 偶発債務

次の子会社及び関連会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
G-TEKT India Private Ltd.	617百万円	229百万円
G-TEKT North America Corporation		823百万円
PT. G-TEKT Indonesia Manufacturing		1,852百万円
G-ONE AUTO PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V.		2,573百万円
計	617百万円	5,478百万円

3. 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
圧縮記帳額	149百万円	149百万円
(うち、土地)	149百万円	149百万円

(損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
荷造運搬費	1,171百万円	688百万円
役員報酬	313百万円	369百万円
給料及び手当	633百万円	693百万円
賞与引当金繰入額	125百万円	116百万円
退職給付引当金繰入額	112百万円	103百万円
役員退職慰労引当金繰入額	40百万円	48百万円
旅費交通費	304百万円	337百万円
減価償却費	164百万円	270百万円
おおよその割合		
販売費	24.0%	13.8%
一般管理費	76.0%	86.2%

2. 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業取引		
売上高	32,258百万円	30,898百万円
仕入高	9,014百万円	9,780百万円
諸経費	10百万円	313百万円
営業取引以外の取引		
受取利息		45百万円
受取配当金	1,193百万円	1,701百万円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成25年3月31日	平成26年3月31日
子会社株式	38,078	42,370
関連会社株式	2,243	1,221
計	40,321	43,591

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(流動)

	(単位：百万円)	
	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税否認	30	70
賞与引当金損金算入限度超過額	324	293
固定資産税	25	24
その他	68	75
繰延税金資産小計	449	464
評価性引当額		0
繰延税金資産合計	449	463

(固定)

	(単位：百万円)	
	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
減価償却費損金算入限度超過額	482	515
退職給付引当金損金算入限度超過額	417	398
役員退職慰労引当金	191	201
関係会社株式評価損	1,346	1,346
その他	368	439
繰延税金資産小計	2,804	2,901
評価性引当額	163	214
繰延税金資産合計	2,641	2,687
繰延税金負債		
買換資産圧縮積立金	18	17
その他有価証券評価差額金	1,077	1,276
その他	22	21
繰延税金負債合計	1,119	1,314
繰延税金資産の純額	1,522	1,372

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	37.8%	37.8%
(調整)		
交際費等永久に損金算入されない項目	0.8%	0.6%
受取配当金益金不算入	0.3%	0.4%
海外子会社受取配当金益金不算入	8.8%	11.5%
外国税額控除	0.8%	0.4%
均等割	0.6%	0.6%
評価性引当額	0.1%	0.3%
その他	0.6%	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.0%	28.1%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の37.8%から35.4%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が32百万円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が32百万円増加しております。

(重要な後発事象)

株式の分割について

当社は、平成26年2月28日開催の取締役会決議に基づき、平成26年4月1日付で、次のとおり株式の分割を実施いたしました。

(1) 株式分割の目的

投資家の皆様に、より投資しやすい環境を整えるため、株式分割を行い投資単位当たりの金額を引き下げることにより、当社株式の流動性の向上と投資家層の更なる拡大を目的とするものであります。

(2) 株式分割の概要

株式分割の方法

平成26年3月31日(月曜日)を基準日として、同日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有する普通株式1株につき2株の割合をもって分割いたしました。

分割により増加した株式数

株式分割前の発行済株式総数 21,965,630株

分割により増加した株式数 21,965,630株

株式分割後の発行済株式総数 43,931,260株

株式分割後の発行可能株式総数 100,000,000株

(3) その他

資本金の金額の変更

株式分割に際しまして、資本金の額の変更はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	9,002	247	5	567	8,677	10,620
	構築物	273			46	226	1,280
	機械及び装置	4,258	1,016	1	894	4,379	20,664
	車両及び運搬具	116	67	0	42	140	493
	工具、器具及び備品	3,514	5,035	0	3,415	5,134	39,228
	土地	7,717				7,717	
	建設仮勘定	2,196	6,294	2,125		6,365	
	計	27,079	12,661	2,133	4,966	32,640	72,288
無形固定資産	借地権	80				80	
	ソフトウェア	101	48		41	108	
	電話加入権	8				8	
	計	190	48		41	197	

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

栃木工場 精密機械関係	393百万円
自動車部品製作用金型	3,943百万円
製作中金型冶工具	5,240百万円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	18	18	18	18
賞与引当金	858	829	858	829
役員退職慰労引当金	540	48	19	569

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 http://www.g-tekt.jp/
株主に対する特典	該当事項なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利及び株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度(第2期)(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
平成25年6月21日関東財務局長に提出。

(2)内部統制報告書及びその添付書類

事業年度(第2期)(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
平成25年6月21日関東財務局長に提出。

(3)四半期報告書及び四半期報告書の確認書

第3期第1四半期(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
平成25年8月9日関東財務局長に提出。

第3期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)
平成25年11月8日関東財務局長に提出。

第3期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)
平成26年2月7日関東財務局長に提出。

(4)臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく
臨時報告書

平成25年6月27日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号(特定子会社の異動)の規定に基づく臨時報告書
平成25年8月9日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年6月20日

株式会社ジーテクト

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 高 橋 勝 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 東 葎 新 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジーテクトの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ジーテクト及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ジーテクトの平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ジーテクトが平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成26年6月20日

株式会社ジーテクト

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高 橋 勝 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 東 葭 新 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジーテクトの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第3期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ジーテクトの平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。